

教授行動・学習行動・学修成果 三位一体の可視化 - 学習者中心の大学教育改革 -

産業能率大学 経営学部長
教育開発研究所長
AP実行委員会委員
松尾 尚

【産業能率大学】



創立者である上野陽一が普及に努めた**マネジメント**の思想と理念について、理論・基礎研究の成果を社会に還元し、**ビジネスの場での実践・応用**を教育・指導する場として創設した。

能率の父 創立者 上野陽一
(日本初の経営コンサルタント、マネジメント研究の先駆者)



【アクティブラーニング (AL)】

これまでの教育改革において、特に**アクティブラーニング**を推進し、経済産業省、日本私立大学協会、日本高等教育開発協会などから先進的な取組みとして評価いただいた。

	取組み例
ALをテーマとしたFDの実施	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングをテーマにFDを実施。 他大学の事例紹介などにとどまらず、ALにおける具体的な教授法等について模擬講義を通じて浸透を図る。
初年次教育におけるALの実践	<ul style="list-style-type: none"> 初年次のコア科目である「基礎ゼミ」において、経営学部全20クラスの担当教員がALを実践。 ALの質向上を目的にSA (Student Assistant) を経営学部の基礎ゼミ全クラスに配置。
PBL科目の設置	<ul style="list-style-type: none"> 企業の具体的な経営課題の解決に取り組むPBL科目を初年次および上級学年に設置。
他大学と共同でPBL型ビジネスコンテストを実施	<ul style="list-style-type: none"> 他大学生との交流を通じて本学学生の成長を促進するとともに、大学として他大学のAL手法を積極的に取り込むことを意図して、立教大学経営学部とPLB型ビジネスコンテストを実施。
理論と演習を組合せたカリキュラム編成	<ul style="list-style-type: none"> 知識の習得と、技能・態度の向上を同時に達成するため、理論科目と演習科目を組み合わせ、学生の能力を総合的に伸ばすカリキュラムを編成。



【本学のALを評価いただいた例】

- 河合塾編著「『深い学び』につながるアクティブラーニング」にて、4年間を通じたAL、ALの設計と導入において優れた取組みを行っている大学として紹介された。



- 経済産業省主催「社会人基礎力を育成する授業30選」に本学基礎ゼミが選出された。
- 日本私立大学協会・教育学術新聞「教授法が大学を変える」(2015年度版)『深化するアクティブラーニング』で、基礎ゼミⅠ・Ⅱが巻頭でピックアップされた。
- 基礎ゼミⅠ・Ⅱが日本高等教育開発協会「JAED Good Teaching Award」を受賞した(2016年3月)。

【アクティブラーニング実質化の組織的推進】

平成26年大学教育再生加速プログラム(AP)に採択されたことを機に、科目担当者による**授業改善**を中心に据えつつ、いかに組織的に**アクティブラーニングを深化**させていくか（ディープアクティブラーニング）について取り組みを始めた。



大学教育再生加速プログラム(AP)

- (1) 教育方法の改善
- (2) 教育プログラムの改善
- (3) 学習支援の強化
- (4) 学修成果の多面的把握
- (5) 高大接続の強化
- (6) 事業成果の三方発信（大学, 高校, 社会人）

【主体的学習者の育成】

学生の主体的学習態度を引き出す取り組みを並行して行う。

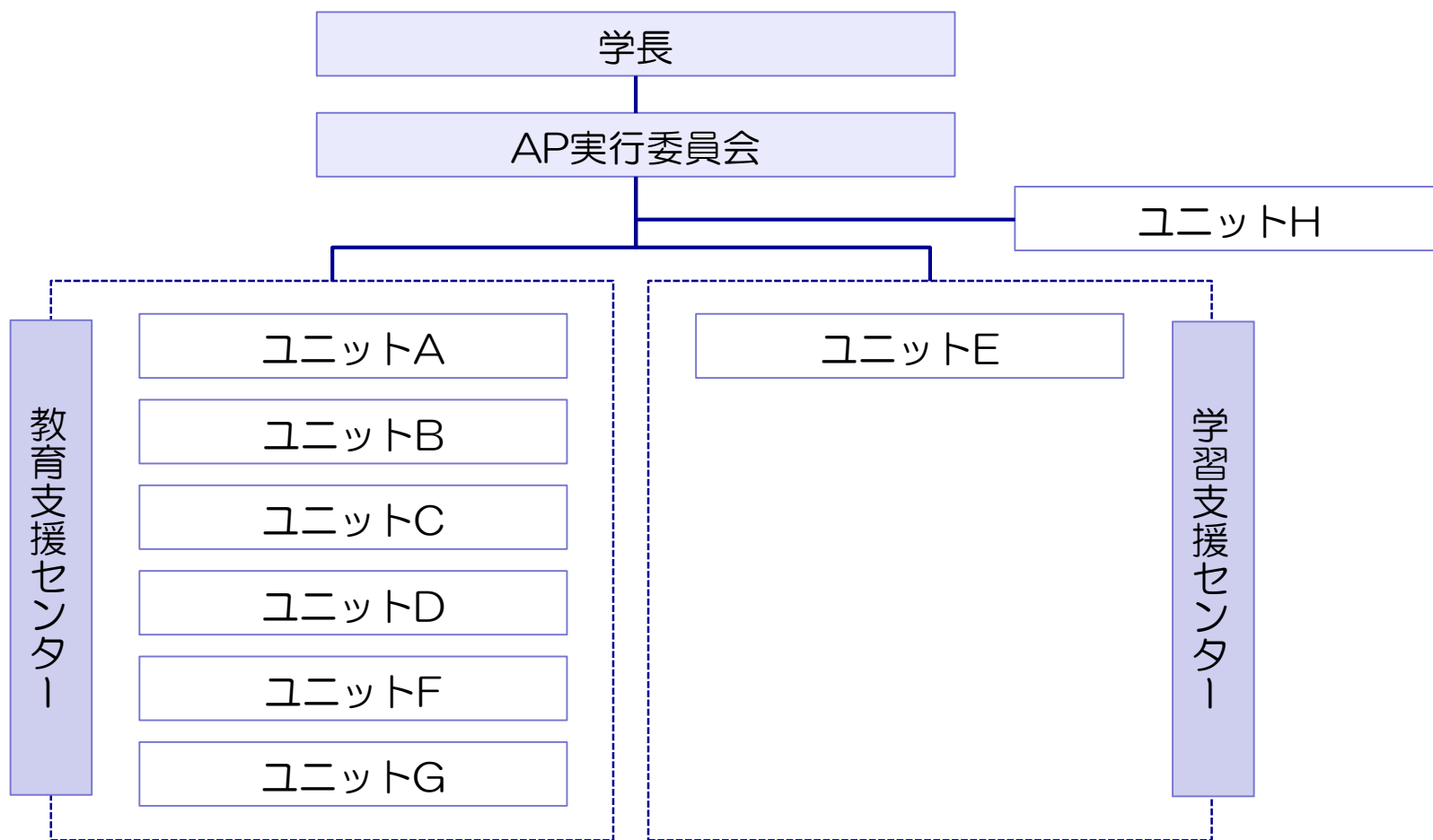
主体的学習者
の育成



アクティブラーニング
の実質化

【ユニット制の採用】

事業の着実な推進を担保するため、**ユニット制**を採用した。**学長**を委員長とするAP実行委員会のもと、**教職員**からなる8つのユニットを組織した。



【各ユニットの役割】

副学長・学部長・センター長などをリーダーとする8つのユニットが補助事業および関連する自主事業を分担して推進した。

	リーダー	自主事業	補助事業	1. 教育方法 の改善	2. 教育プログラムの改善	3. 学習支援 の強化	4. 学修成果 の多面的 把握	5. 高大接続 の強化
A	学部長	6	3	●				
B	情報センター長	0	2	●				
C	副学長	1	6		●			
D	副学長	1	5		●	●		
E	前学部長・ 前学習支援センター長	2	3			●		
F	学部長	2	8				●	
G	図書館長	0	1					●

【教育改革の5つのポイント】

- (1) 全学的かつ教職一体の**事業推進体制**の構築
- (2) 事業成果把握のための**KPI**(Key Performance Indicator)の設定
- (3) ALの組織的推進に必要な**3つの可視化**
- (4) 事業範囲は**入学前から卒業後まで**（高大接続・大社接続）
- (5) 教育改善のヒントは**Good Practice**に隠されている

3つの可視化

教授行動の可視化

- 授業外学習内容の詳述（シラバス改訂）
- 授業内スタッツデータの測定



学習行動の可視化

- 授業出席状況
- 課題提出状況
- 学生生活アンケート
- 授業外学習時間, リーディング量, ライティング量調査
- LMS*利用状況



学修成果の可視化

- GPA
- 技能・態度（PROGテスト）
- 学生ヒアリング調査
- 卒業生調査
- 就職先調査

*LMS : Learning Management System

【主な成果】

(1) INPUT（教授行動など）

（全学実績）

	KPI	H26年度	H30年度	成果
1	AL導入科目の割合	32.5%	38.7%	6.2%増
2	ALを行う専任教員数の割合	88.6%	92.8%	4.2%増
3	高次のPBL科目数	22科目	48科目	26科目増
4	学習支援センターによる 事前・事後学習の支援件数	（データなし）	1,819件	1,500件超
5	GPA, 学習行動データ, ラーニングポート フォリオ, PROテスト結果に基づく総 合的な学習指導	（データなし）	92.2%	90%超
6	探究型学習スペースでの指導件数	（データなし）	589件	500件超

【主な成果】

(2) OUTPUT (学習行動など)

(全学実績)

	KPI	H26年度	H30年度	成果
1	学生1人あたりAL科目受講数	6.0科目	7.3科目	1.3科目増
2	学生1人あたりAL科目に関する授業外学習時間	4.1時間	9.2時間	2.24倍
3	授業外学習時間	8.5時間	16.7時間	1.96倍
4	授業満足率	45.7%	48.3%	2.6%UP
5	退学率	(非公開)	(非公開)	0.4%減
参考	入学志願者数	4,713名	8,923名	1.89倍

1. 可視化の取組み

2. 学習者中心の教育の質向上に関する取組み

3. 高大接続の強化に関する取組み

4. APを通じて得られたこと、 発展的継続に向けて



1. 可視化の取組み

【3つの可視化の必要性】

C.学修成果のみならず、A.教員の教授行動、B.学生の学習行動も可視化し、相互の関係を検証することが教育の質保証につながる。

A.教授行動の可視化

- 授業外学習内容の詳述
(シラバス改訂)
- 授業内スタッツデータの測定



B.学習行動の可視化

- 授業出席状況
- 課題提出状況
- 学生生活アンケート
- 授業外学習時間,リーディング量,ライティング量調査
- LMS*利用状況



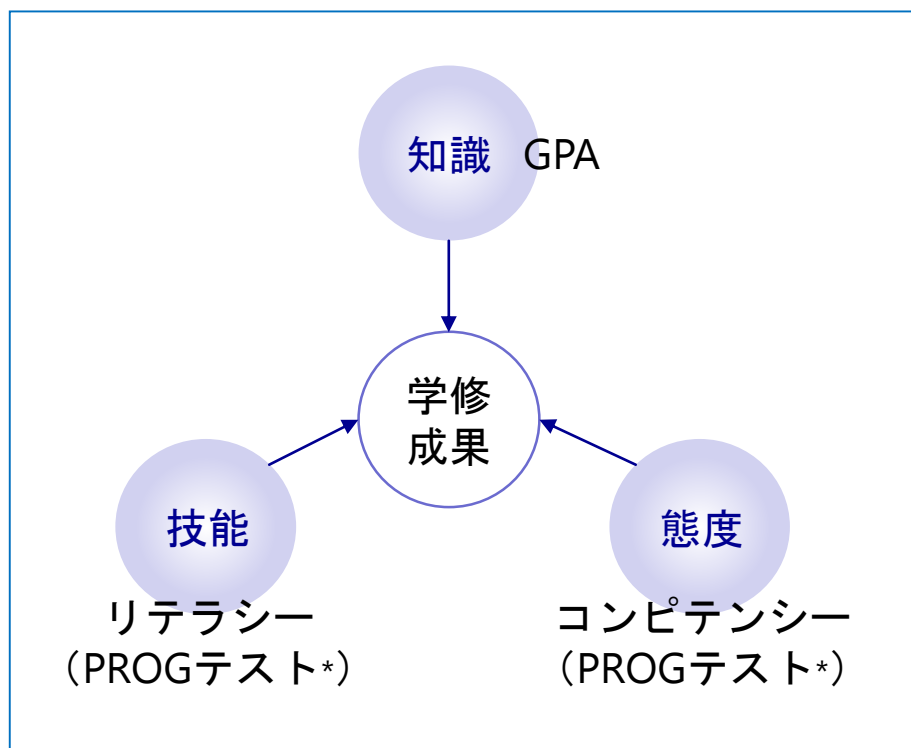
C.学修成果の可視化

- GPA
- 技能・態度
(PROGテスト)
- 学生ヒアリング調査
- 卒業生調査
- 就職先調査

*LMS : Learning Management System

【知識・技能・態度】

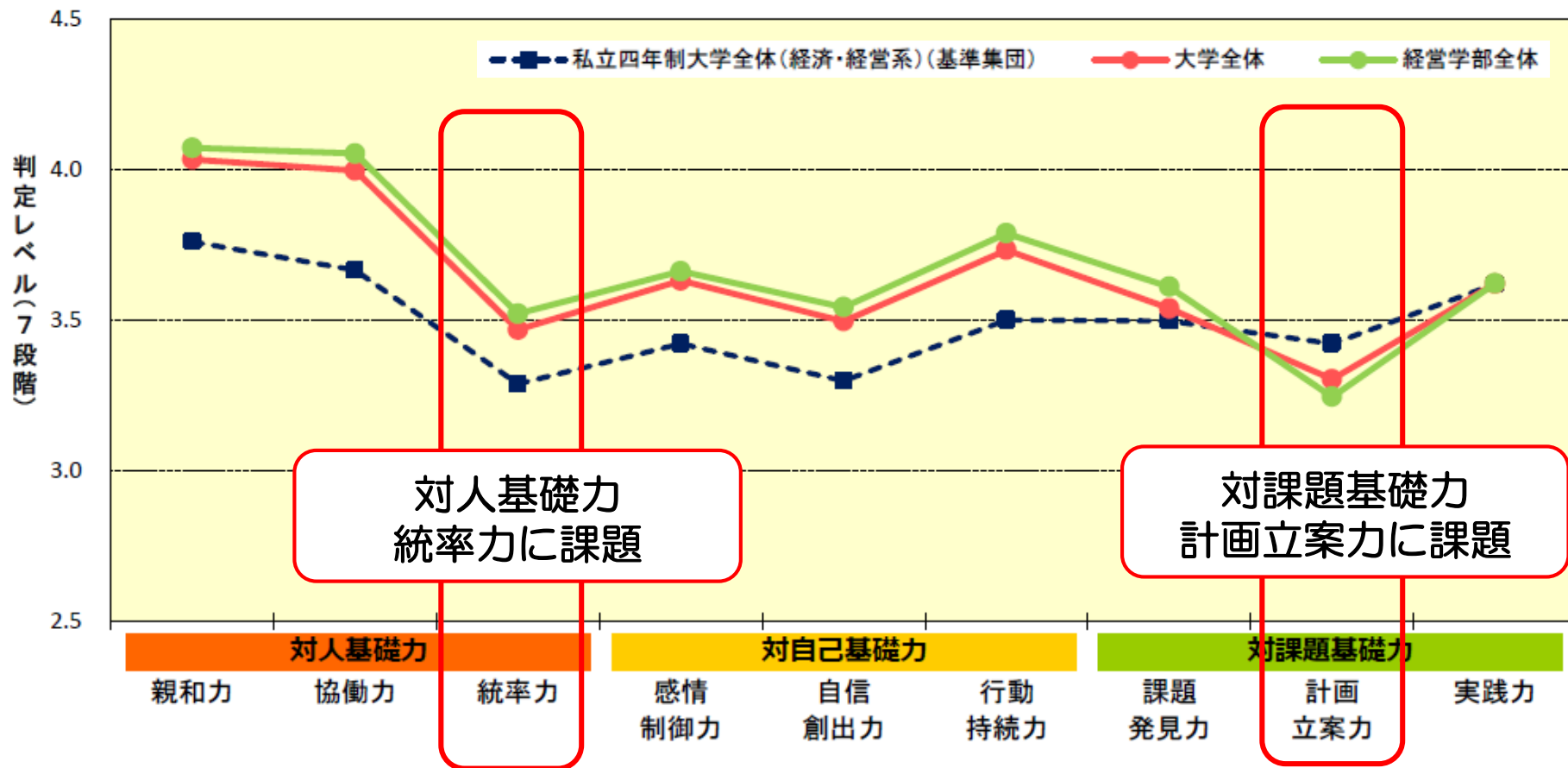
GPAに偏っていた学修成果の把握を、知識・技能・態度の3側面からの把握に改め、学生に対する総合的な学習指導を可能にした。



*PROGテスト

Progress Report on Generic Skillsテストの略。学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同開発した社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（ジェネリックスキル）を測定・育成するためのアセスメントプログラム。

【2019 PROG コンピテンシー評価（7段階）】



- 統率力＝リーダーシップ
- 「計画立案力」とは、課題発見力・実践力とともに対課題基礎力を構成する基本要素のひとつで、問題解決のための効果的な計画を立てる力である。

【GPAの厳格な運用】

成績評価（S,A,B,C,D,F）の基準を定めてその遵守を徹底し、GPAを厳格に運用している。GPAは、定員を超える履修希望のあった科目の履修者選抜、卒業・進級要件等に活用している。さらに、GPAを含めた学習履歴をもとに毎学期、アカデミックアドバイザー教員による学習指導（成績指導）を行っている。

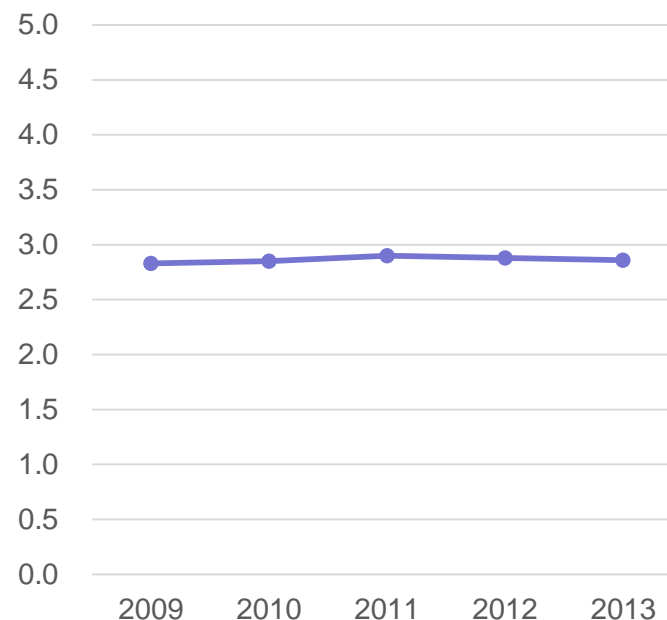
成績評価の基準

評価	割合	基準
S	0% ~ 5%	極めて優れている
A	25% ± 5 %	優れている
B	30% ± 5 %	やや優れている
C	25% ± 5 %	標準的なレベルである
D	0% ~ 15%	最低限の基準を満たしている
F	0% ~ 20%	合格と認められない

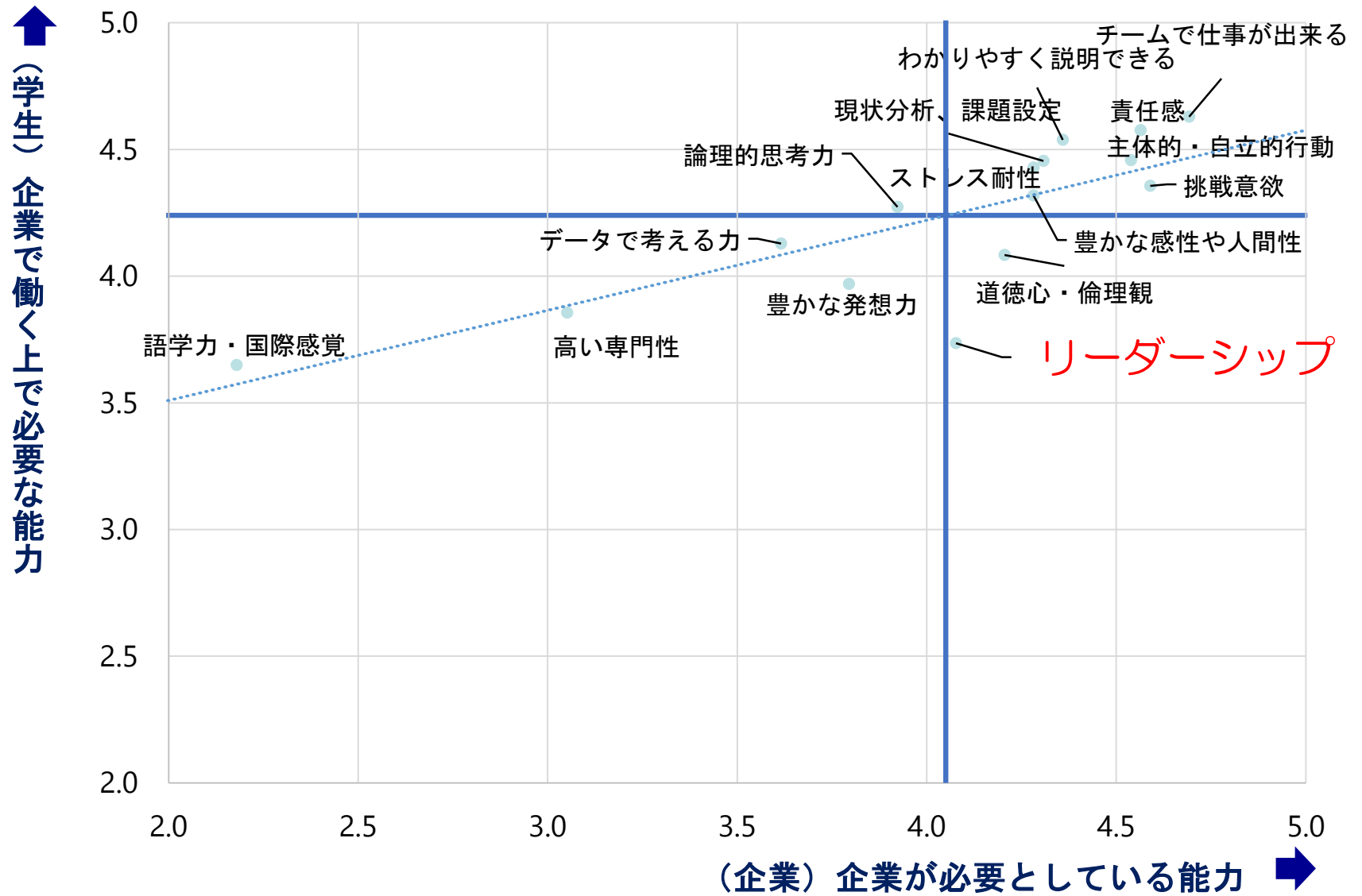
運用

履修者選抜, 進級要件, 卒業要件, 成績指導基準

GPA平均値の推移



【卒業生調査・主な就職先調査】

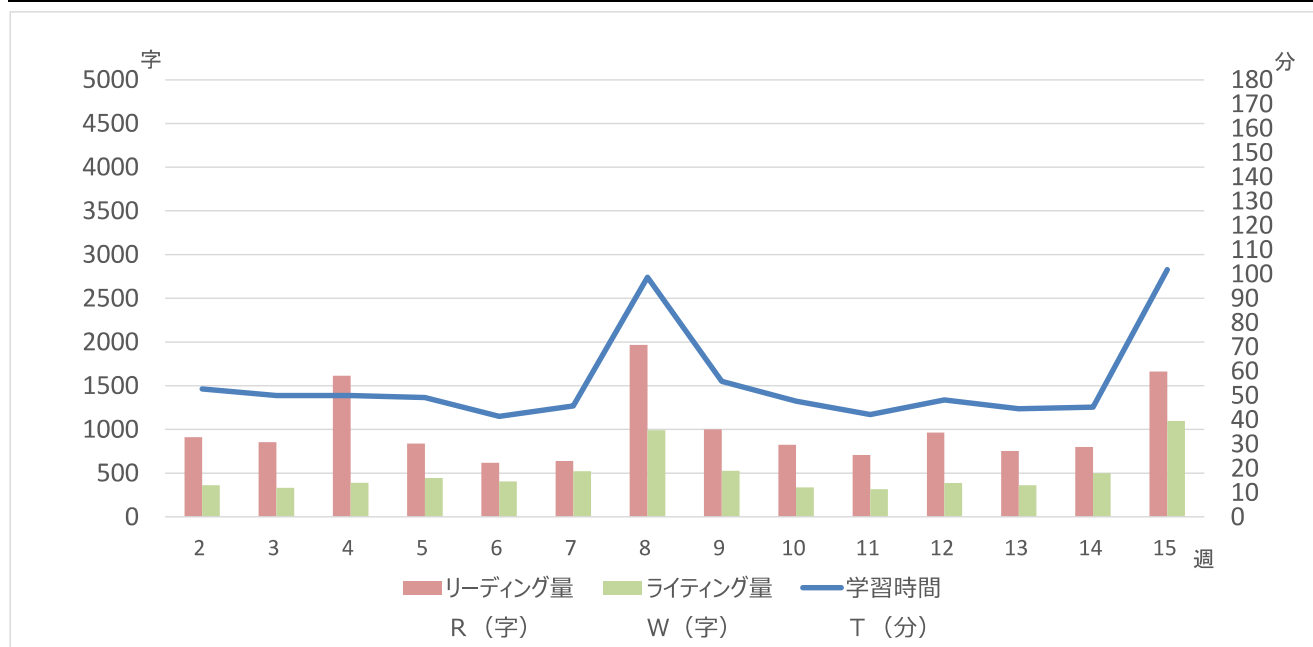


【授業外学習調査】 ～1科目

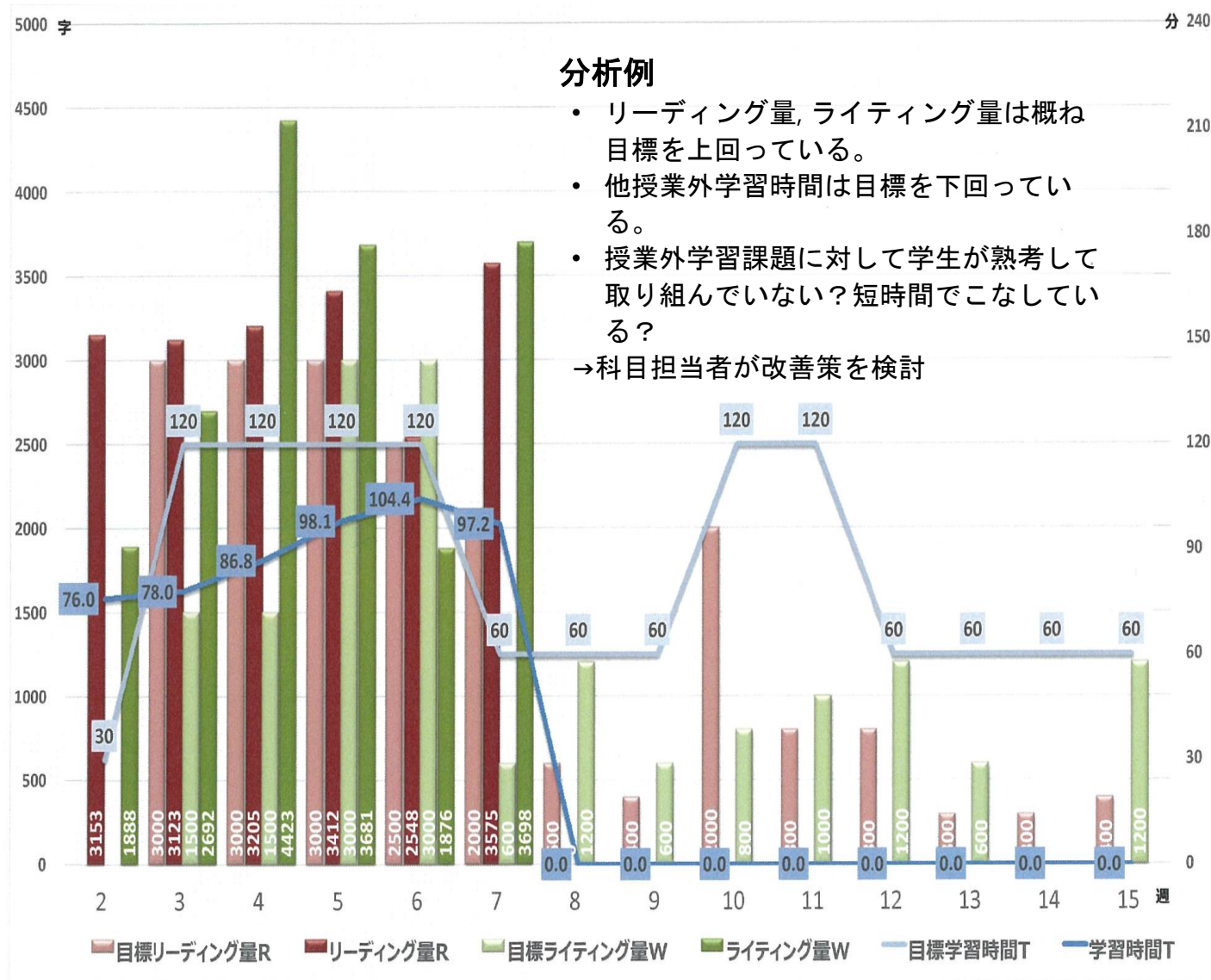
調査方法

- 担当教員から入力を強く依頼
- 学生自身が入力

授業外期間	回答数 (人)	回答率 (%)	調査 週	学習時間 T (分)	リーディング量 R (字)	ライティング量 W (字)	一番学習に費やした項目							
							1	2	3	4	5	6	7	8
第1～2週目間	66	80%	2	52.7	913	363	39	10	23		1	1		5
第2～3週目間	63	76%	3	50.0	856	333	43	10	19	1	1			3
第3～4週目間	72	87%	4	50.0	1616	890	43	16	27	1	1	1	1	7
第4～5週目間	64	77%	5	49.2	838	444	44	8	21					4
第5～6週目間	66	80%	6	41.4	618	406	43	9	13	1		2	1	6
第6～7週目間	67	81%	7	45.7	641	521	51	12	16			3		5
第7～8週目間	69	83%	8	98.7	1967	991	43	10	23	1	1	18	2	3
第8～9週目間	65	78%	9	55.8	999	528	49	12	22	1		4		2
第9～10週目間	66	80%	10	47.7	825	338	47	15	19					1
第10～11週目間	69	83%	11	42.2	710	315	47	15	9			1		6
第11～12週目間	61	73%	12	48.2	966	889	45	11	9	2			1	5
第12～13週目間	60	72%	13	44.5	754	363	41	13	9	1	1	2		6
第13～14週目間	69	83%	14	45.2	799	501	44	13	16	4	1			3
第14～15週目間	33	40%	15	101.8	1664	1095	23	7	8			1		1
計	63.6	77%		55.2	1011.9	498.4	54%	15%	21%	1%	1%	3%	0%	5%



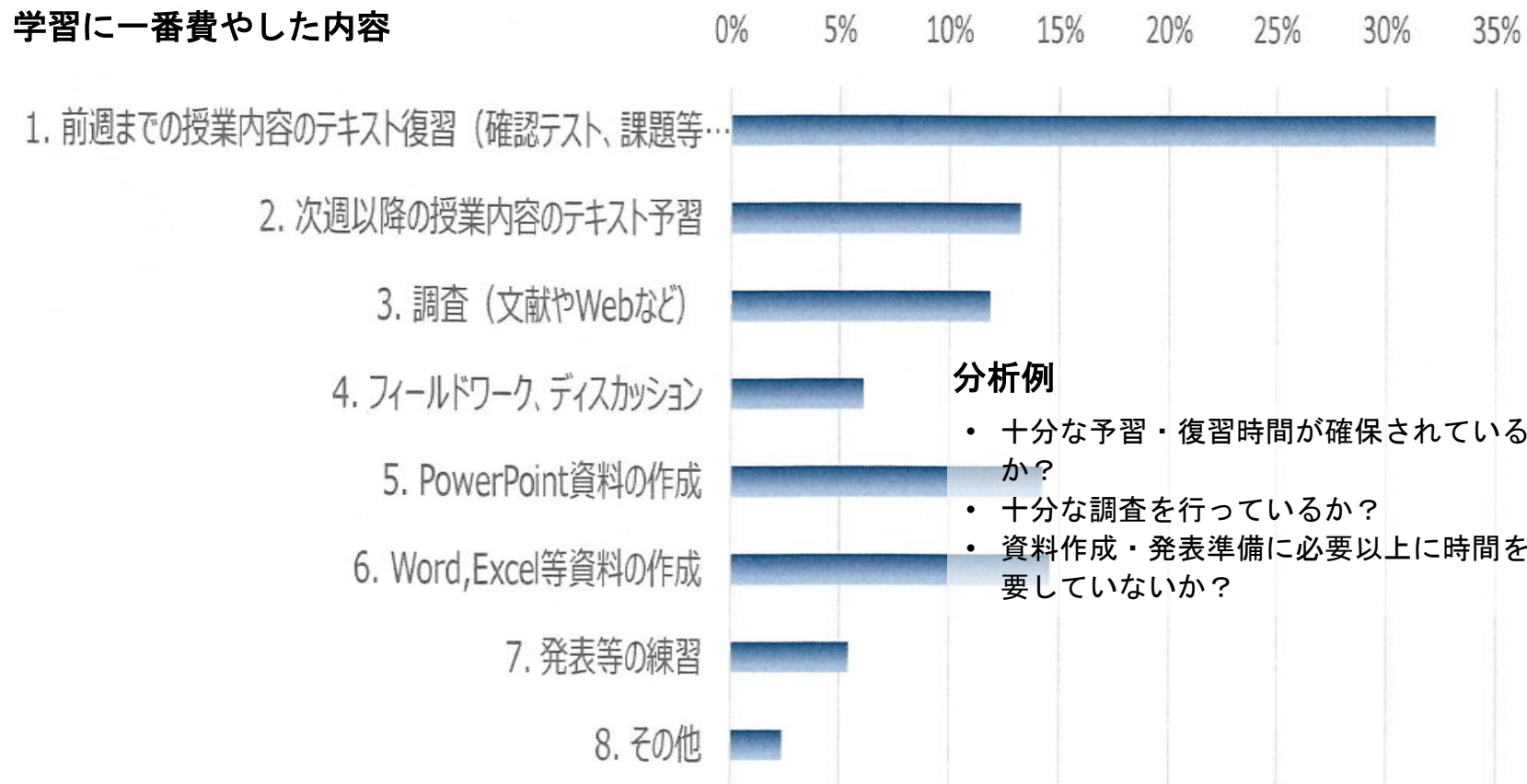
【授業外学習調査】 ～1科目



※グラフ 文字数3000→5000 時間180→240とした。

【授業外学習調査】 ～1科目

学習に一番費やした内容



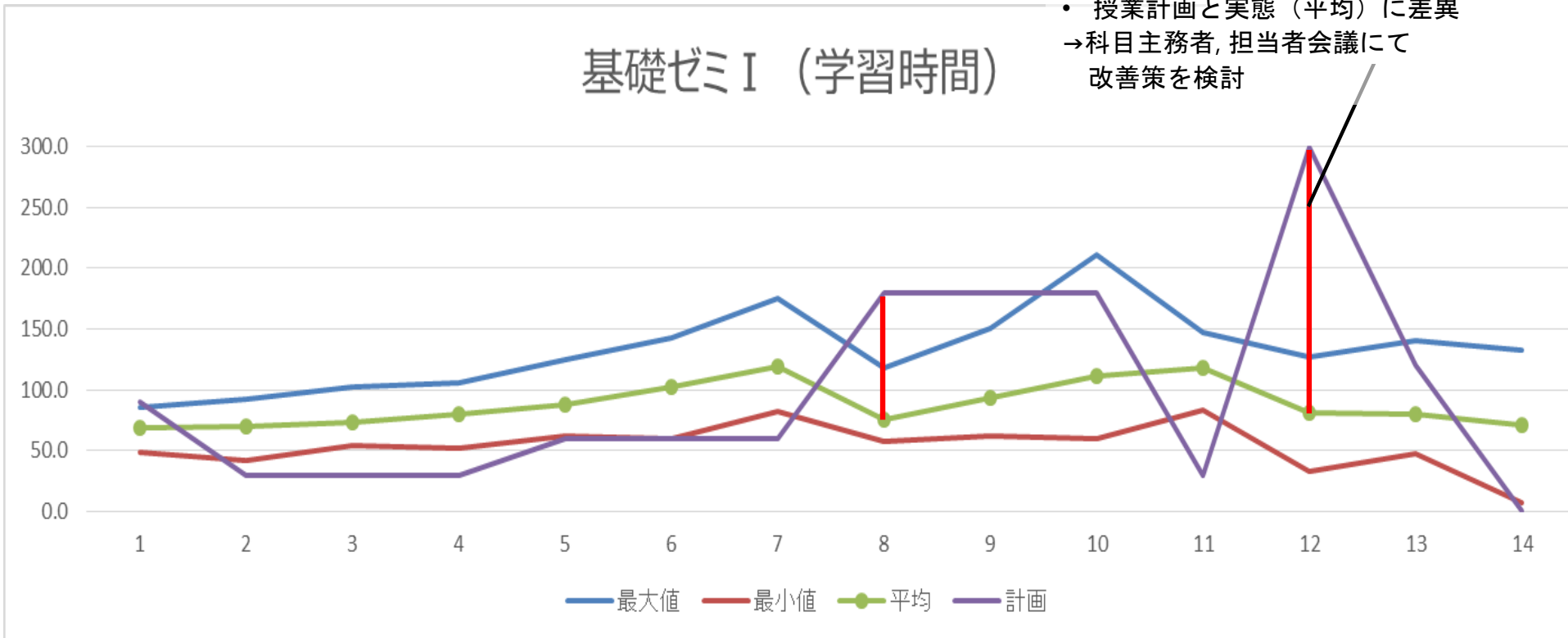
【授業外学習調査】 ～複数クラス

○各週の授業外学習時間

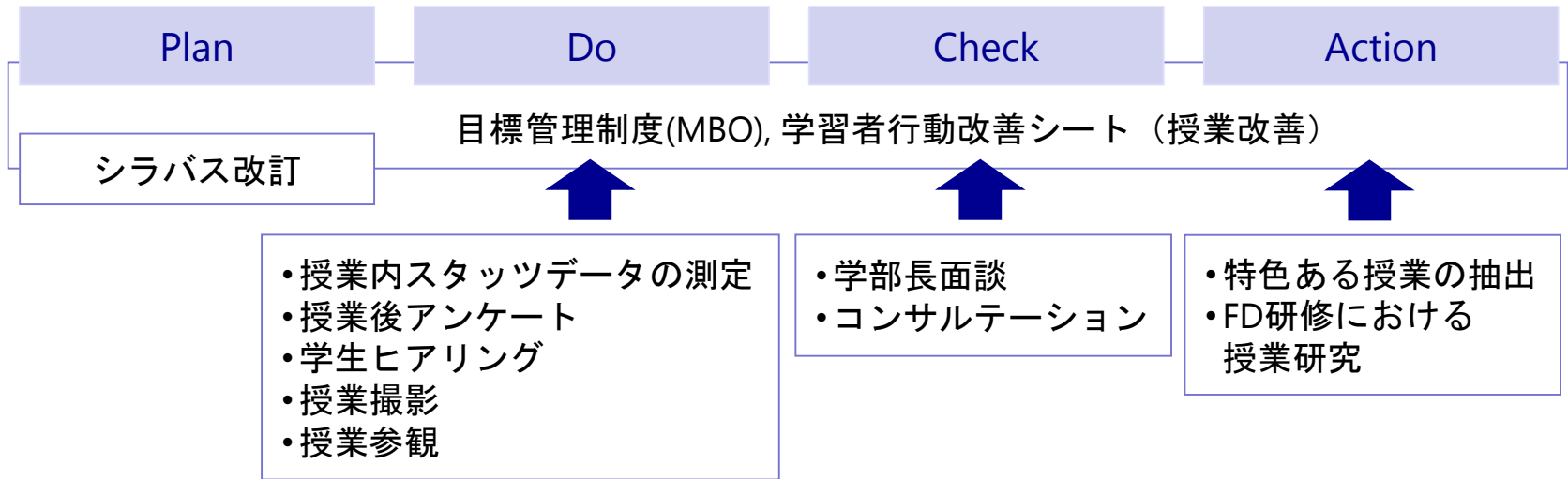
分析例

- 授業計画と実態（平均）に差異
→科目主務者, 担当者会議にて
改善策を検討

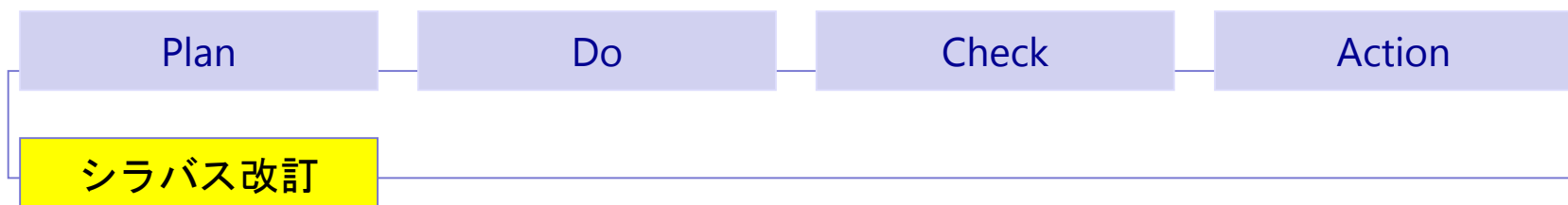
基礎ゼミ I (学習時間)



【PDCAサイクルに沿った改善】



【授業外学習内容の詳述（シラバス改訂）】



- 授業外学習の記述詳細化
- 授業外学習の評価（20%以上）

評価方法	割合	評価のポイント
授業出席	20%	授業中の積極的な発言など参画度も合わせて評価する
授業外学習	20%	授業外学習で定められたテーマに毎回取り組んだか、またその達成レベルで評価する
小テスト	10%	各回の講義で説明している概念の理解度を確認する
提出課題	20%	～についての情報収集・分析・改善提案力を評価する
定期試験	30%	実施する。～に関する理解度と、事例に対する考察力を確認する

【授業内スタッツデータの測定】



*スタッツデータとは

統計を意味するstatisticsに由来する言葉（stats）で、スポーツにおける各選手のプレーやチームの成績に関する統計数値のことをいう。そして、授業内スタッツデータとは、授業における教員と学生のパフォーマンス（学生の質問数、教員と学生の対話数、事前課題に対するフィードバック時間等）の測定データのことをいう。

測定した授業内スタッツデータの結果は「フィードバックシート」にまとめられ、授業を担当した教員に後日提示される。各教員は、本フィードバックシートをもとに授業改善を図る。

フィードバックシート(スタッツ等のデータ分析結果)

年度	測定日	キャンパス	区分・時限	教室	担当教員名	科目名	判別タイプ
2018	2018年	自由が丘	選択	1205			Act
後期	10月26日		金曜・2時限				

1. 出席率

履修者数	出席人数	出席率
57	54	94.7%

2. 学生分布

11.1%	7.4%	18.5%
11.1%	9.3%	22.2%
7.4%	1.9%	11.1%

3. 私語

1	1	1
1	1	1
1	1	1

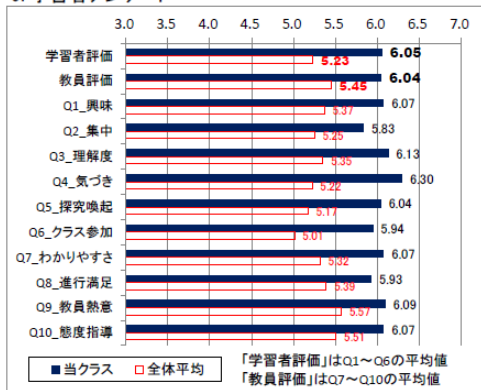
4. 居眠り

1	1	1
1	1	1
2	1	1

5. 教員ポジション

	13.4%
0.0%	69.6%
0.0%	11.6%
0.0%	5.4%

9. 学習者アンケート



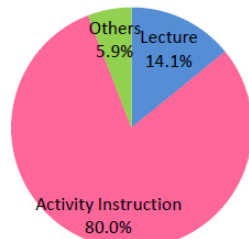
6. 教員行動

区分	項目No.	測定項目	当クラス(分・%)	Lec平均	Act平均	
Lecture	1	説明	6	7.1%	50.9%	27.9%
	2	振り返り	6	7.1%	4.3%	2.0%
	3	例示	0	0.0%	5.9%	1.4%
	4	余談	0	0.0%	1.8%	1.0%
	5	映像	0	0.0%	5.5%	1.2%
	6	実演	0	0.0%	0.7%	1.4%
	7	板書	0	0.0%	2.8%	2.3%
Activity Instruction	8	発問・全体	0	0.0%	2.9%	2.7%
	9	発問・特定	0	0.0%	3.0%	2.6%
	10	応答	0	0.0%	0.6%	1.7%
	11	指示	1	1.2%	2.9%	7.2%
	12	机間指導	0	0.0%	3.1%	20.0%
	13	傾聴	43	50.6%	4.1%	8.0%
	14	コメント・評価	24	28.2%	1.8%	4.6%
Others	15	連絡・告知	5	5.9%	1.7%	1.7%
	16	注意	0	0.0%	1.4%	1.3%
	17	資料配布等	0	0.0%	1.6%	2.6%
	18	その他	0	0.0%	5.0%	10.1%

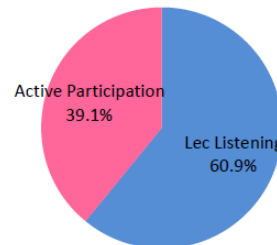
【表2～5の見方】

- ・上ほど教室前方、下ほど教室後方。表5の最上段は教卓。未測定科目および学生不在は「-」。
- ・表2～4の数値の意味は、1=気にならない、2=やや気になった、3=とても気になった。
- ・値が大きいくほど濃色で網掛け。

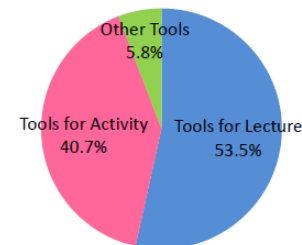
教員行動区分	当クラス(分・%)
1 Lecture	12 14.1%
2 Activity Instruction	68 80.0%
3 Others	5 5.9%



学習者行動区分	当クラス(分・%)
1 Lec Listening	81 60.9%
2 Active Participation	52 39.1%



利用ツール区分	当クラス(分・%)
1 Tools for Lecture	46 53.5%
2 Tools for Activity	35 40.7%
3 Other Tools	5 5.8%



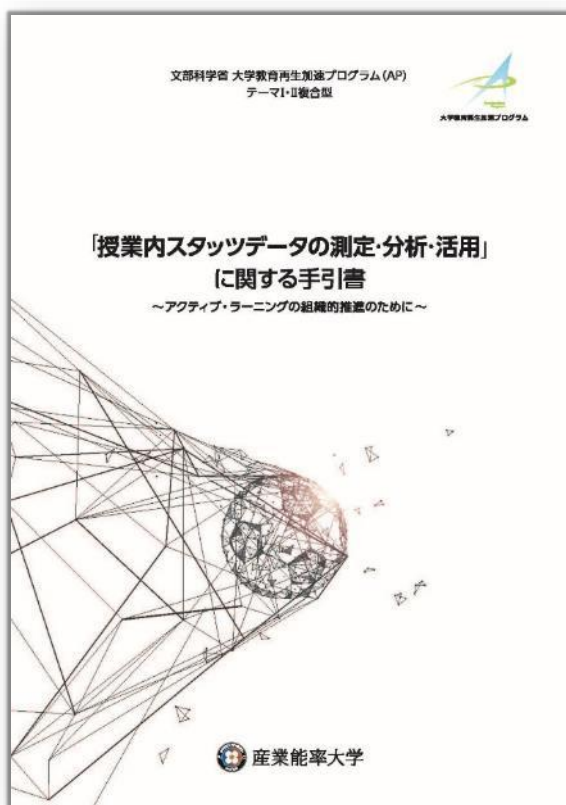
7. 学習者行動

区分	項目No.	測定項目	当クラス(分・%)	Lec平均	Act平均		
Active Participation	Lec Listening	19	聴講	81	60.9%	83.1%	36.8%
	20	回答・解答	1	0.8%	4.4%	5.9%	
	21	個人ワーク	0	0.0%	8.0%	24.9%	
	22	グループワーク	0	0.0%	2.7%	20.8%	
	23	クラスワーク	1	0.8%	0.1%	0.9%	
	24	発表	48	36.1%	0.7%	6.4%	
	25	質問	0	0.0%	0.3%	3.0%	
	26	自主発言	2	1.5%	0.6%	1.3%	

8. 利用ツール

区分	項目No.	測定項目	当クラス(分・%)	Lec平均	Act平均	
Tools for Lecture	27	レジュメ	0	0.0%	12.2%	15.6%
	28	テキスト	0	0.0%	4.8%	6.4%
	29	スライド	46	53.5%	58.0%	30.1%
	30	映像	0	0.0%	8.6%	2.2%
	31	サンプル等	0	0.0%	0.6%	0.7%
Tools for Activity	32	ワークシート	31	36.0%	2.4%	15.4%
	33	テスト	4	4.7%	1.5%	3.9%
	34	ミニレポート	0	0.0%	2.4%	1.6%
	35	学生PC・スマホ	0	0.0%	1.9%	15.5%
	36	クリッカー	0	0.0%	0.2%	0.1%
	37	出席カード	1	1.2%	2.0%	0.9%
Other Tools	38	その他	4	4.7%	5.4%	7.6%
	-	39	不使用	11	12.8%	19.4%

『授業内スタッツデータの測定・分析・活用のための手引書 ～アクティブ・ラーニングの組織的推進のために』



(主な内容)

- 授業内スタッツデータとは
- 測定の意義と期待される効果
- 測定ツールの説明
- 測定方法
- フィードバックシートの内容
- 学習者行動改善シートの内容
- 測定データの活用事例

【測定ツール】

(1) 受講生数カウントシート

- 受講生数と遅刻者数を記録する。
- 履修人数との演算により、出席率・遅刻率が把握できる。
- 教室内を9つのエリアに分け、どのエリアに何人が着席しているかも記録する。これにより教室内の学生分布が把握できる。

受講生数カウントシート			
教室	201教室	日・時限	2018年 月 日 (水4時限)
科目名		講師名	先生
遅刻者数	名	受講生数 (遅刻者含む)	名
【備考欄】 電車の遅延等、授業進行に関する特殊事情があれば記入してください。			

【測定ツール】

(2) ムービングデータ測定シート

- 教員が教室内のどのエリアにいたのか1分単位で記録し、教員ポジションを把握する。
- 対象エリアは、前述の9エリアに教卓を加えた10のエリアである。

測定日・時限	教室	科目名	講師名
2017年 6月 23日(金) 1限	1202	基礎ゼミ	

	時刻			S	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3
	1/10	13:30	~	13:31	1								
	13:31	~	13:32	1	1								
	13:32	~	13:33		1								
	13:33	~	13:34	1	1								
	13:34	~	13:35		1	1							
	13:35	~	13:36		1			1					
	13:36	~	13:37					1	1				
	13:37	~	13:38							1			
	13:38	~	13:39					1	1				
	13:39	~	13:40					1					
2/10	13:40	~	13:41	1				1					
	13:41	~	13:42	1									
	13:42	~	13:43	1				1					
	13:43	~	13:44					1			1		
	13:44	~	13:45								1	1	
	13:45	~	13:46					1			1	1	
	13:46	~	13:47	1				1	1				
	13:47	~	13:48	1	1	1	1						
	13:48	~	13:49		1	1	1						
	13:49	~	13:50		1	1		1	1				

【測定ツール】

(3) パフォーマンスデータ測定シート

- どのような授業が行われていたのかを、教員・学生・ツールごとに、1分単位で記録する。
- 集計によって、当該授業の教員行動・学習者行動・利用ツールの特性が把握できる。

測定日・時間		教室	科目名	講師名	教員																						
2017年 6月 23日(金) 1限		1202	基礎ゼミ I		説明	振り返り	例示	余談	映像	実演	板書	発問・全体	発問・特定	応答	指示	机間指導	傾聴	コメント・評価	連絡・告知	注意	資料配布等	その他	聴講	回答・解答	個人ワーク		
1/10	13:30 ~ 13:31	1																									
	13:31 ~ 13:32														1	1				1				1			
	13:32 ~ 13:33											1												1	1		
	13:33 ~ 13:34											1	1							1				1	1		
	13:34 ~ 13:35	1	1																1					1			
	13:35 ~ 13:36	1	1																		1			1			
	13:36 ~ 13:37	1	1																					1			
	13:37 ~ 13:38	1	1																						1		
	13:38 ~ 13:39	1	1																						1		
13:39 ~ 13:40	1	1																						1			
2/10	13:40 ~ 13:41	1	1																					1			
	13:41 ~ 13:42	1	1									1												1	1		
	13:42 ~ 13:43	1										1												1	1		
	13:43 ~ 13:44	1																						1			
	13:44 ~ 13:45	1																						1			
	13:45 ~ 13:46	1																						1			
	13:46 ~ 13:47	1			1																			1			
	13:47 ~ 13:48	1			1									1										1	1		
	13:48 ~ 13:49	1	1																					1			
13:49 ~ 13:50	1			1																			1				
3/10	13:50 ~ 13:51	1												1										1	1		
	13:51 ~ 13:52	1												1										1	1		
	13:52 ~ 13:53	1																						1			
	13:53 ~ 13:54	1																						1			
	13:54 ~ 13:55	1			1									1										1	1		
	13:55 ~ 13:56	1																						1			
	13:56 ~ 13:57	1																						1			
	13:57 ~ 13:58	1										1												1			
	13:58 ~ 13:59	1																						1			
	13:59 ~ 14:00	1										1												1			

【測定ツール】

(4) 受講態度観察シート

- 授業全体を通して、私語と居眠りを中心に学生の受講態度を観察する。
- 教室内の9つエリアごとに観察するため、エリア別の受講態度が把握できる。

曜日・時限	教室	科目名	講師名	測定日
金1	401			
各エリアの学生の受講態度について回答してください。 [選択肢]1. ほとんど気にならなかった 2. やや気になった 3. とても気になった				
エリア	学生数	私語	居眠り	気づいた点
A-1	9	3. とても気になった	3. とても気になった	私語が多かった。寝ている人が多かった。
A-2	8	3. とても気になった	2. やや気になった	私語が多かった。スマホを使用していた。
A-3				
B-1	2	1. ほとんど気にならなかった	2. やや気になった	授業でパソコンを使用して作業をしていた。
B-2	4	1. ほとんど気にならなかった	2. やや気になった	スマホやタブレットを使用していた。
B-3				
C-1	7	1. ほとんど気にならなかった	2. やや気になった	
C-2	8	2. やや気になった	2. やや気になった	たまにスマホを使用していた。
C-3				
合計	38			

【測定ツール】

(5) 学習者アンケート

- 授業に関する質問は10問あり、7段階尺度で回答してもらう。
- 集計によって当該授業の学習者評価・教員評価が数値として把握できる。

【授業後アンケート】

科目名		担当者名	先生
学生番号		氏名	
どのブロックの席？	A・B・C ブロック	前から何列目の席？	列目

各設問に7段階で回答してください。該当する段階に○印をつけてください。

No.	設問	選択肢 (7段階評価)						
		1	2	3	4	5	6	7
1	本日の授業に興味を持って取り組みましたか。	全く興味を持ってなかった			どちらとも言えない			とても興味を持って取り組んだ
2	本日の授業に集中して臨むことができましたか。	全く集中できなかった			どちらとも言えない			とても集中できた
3	本日の授業内容は理解できましたか。	全く理解できなかった			どちらとも言えない			十分理解できた
4	本日の授業で新たな気づきを得ましたか。	何ら気づきを得られなかった			どちらとも言えない			大きな気づきを得た
5	本日の授業内容についてもっと深く学びたいと思いましたか。	全く学びたいと思わなかった			どちらとも言えない			もっと深く学びたいと思った
6	クラス全体が積極的に授業に参加していましたか。	積極的に参加していなかった			どちらとも言えない			とても積極的に参加していた
7	本日の授業はわかりやすかったですか。	非常にわかりにくかった			どちらとも言えない			とてもわかりやすかった
8	担当教員の授業の進め方は満足いくものでしたか。	とても不満だった			どちらとも言えない			とても満足いくものだった
9	本日の授業で担当教員の熱意は感じられましたか。	全く感じなかった			どちらとも言えない			とても感じた
10	学生の授業態度に関して、担当教員は適切な対応をしましたか。	全く対応していなかった			どちらとも言えない			非常に適切な対応をしていた

【測定の実施】

事前研修を受けた測定スタッフ（学生）が、2-3名で1授業の測定にあたる。

パフォーマンスデータ測定シートの記録を担当する測定スタッフは、測定前に、各測定項目の意味を把握し、教員・学生のパフォーマンスに応じて即時にどの項目に該当するかを判断できるようにしておく。

事前研修の様子

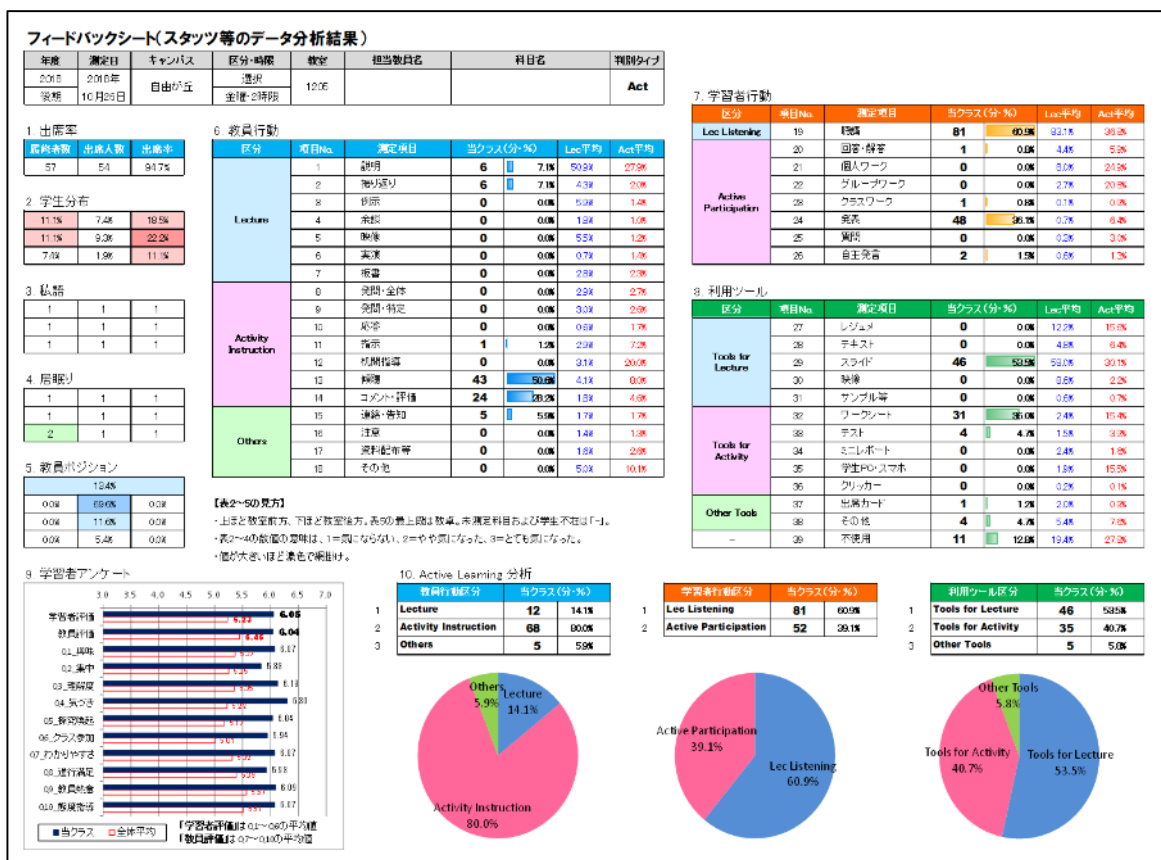


測定の様子



【フィードバックシート】

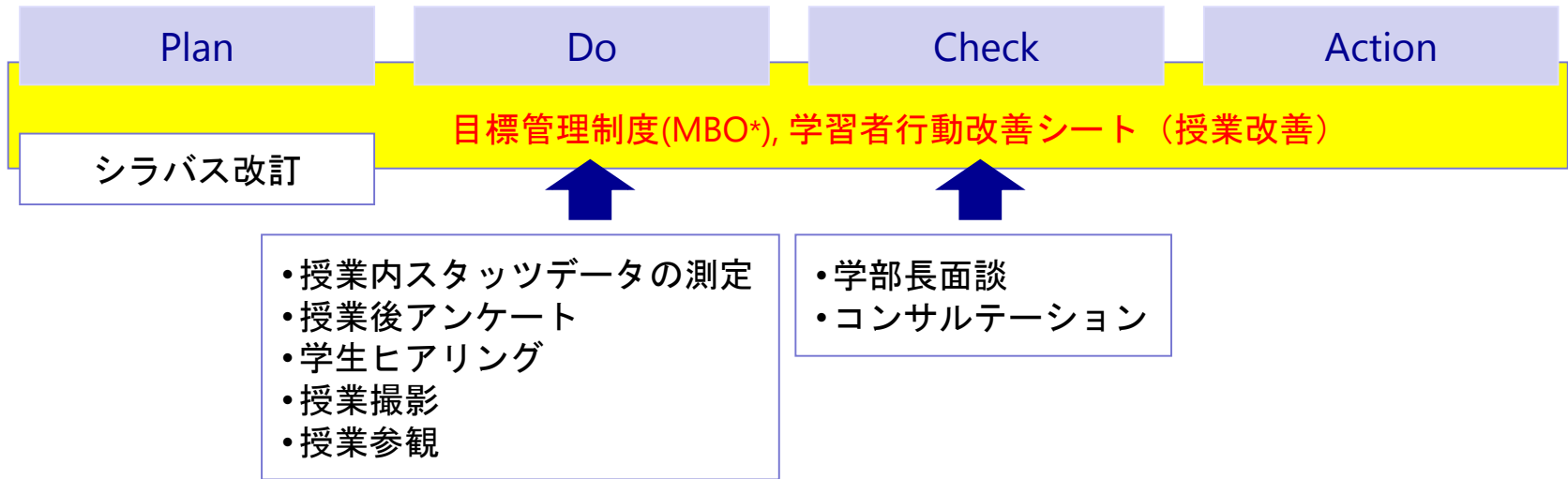
先述した5つの測定ツールを用いることで、測定対象となった科目についての授業内スタッツデータが得られる。これを集計し、科目担当教員に提示するシートが「フィードバックシート」である。



【項目】

- 出席率・学生分布
- 私語・居眠り
- 教員ポジション
- 教員行動
- 利用ツール
- 学習者行動
- 学習者アンケート
- Active Learning分析

【PDCAサイクルに沿った改善】



【学習者行動改善シート】

フィードバックシートを受けて、担当教員がPDCAサイクルに沿って実際に授業改善に取り組むためのツールが「学習者行動改善シート」である。

シート①

学習者行動改善シート①

年度	学期	キャンパス	測定日	曜日	時限	教室	担当教員名	科目名
2015	前期	自由が丘	2015年 7月6日	火	4	6203	杉田 一真	会社法入門

【科目の到達目標】

- ・企業活動に必要「ルール」が必要な場合、どのような弊害が生じるおそれがあるのかについて理解している。
- ・独占禁止法および知的財産権法について、基本的な法令、判例・審決に関する知識を習得している。
- ・会社法について、基本的な知識を習得している。

Plan

1. 今回の授業のねらい

今回の授業のねらいは、学生が以下の理解、及び認識に至るよう適切な授業を展開すること

- ・独占禁止法「再販売価格維持の禁止」「抱き合わせ販売の禁止」について、立法趣旨、基本的な法令、判例・審決に関する知識を習得している。
- ・ブランド内競争、ブランド間競争の概念を理解している。
- ・市場集中度と規制の関係について理解している。
- ・企業が合併を試みる際に調査・検討すべき点を理解している。
- ・法律を学習する意義を理解し、さらなる学習の必要性を認識している。

2. 学習者の興味を喚起する工夫

- ・授業冒頭に小テストを行い、授業内容を受けて自ら正解を導き、解答を訂正してもらう。
- ・授業内容に関連する最近のニュースを事例として紹介する。

5. 学習者の発展学習に向けた意欲を向上する工夫

- ・実例に基づく発展問題に取り組んでもらい、さらなる知識習得・演習が必要であることを認識してもらう。

3. 学習者の集中力を維持・発展する工夫

- ・20分に1度(計5回以上)はワーク(個人/グループ)を入れる。
- ・15分に1度(計6回以上)はクラス全体に対して質問を投げかけ、挙手や指名で回答を求める。
- ・適宜、講師の経験談を余談として挟む。

6. その他、学習者の主体的な学習を促す工夫

- ・自由な発言を許す(促す)クラスルールを周知する。
- ・学生の発言を否定しない。
- ・学生の思考を妨げる私語等の迷惑行為の注意を徹底する。

4. 学習者の理解を促し、知識定着を促進する工夫

- ・適宜、理解度を確認する問いかけをする。
- ・授業の最後に確認テストをオンラインで実施し、すぐに解説を行い、知識定着の不十分な点を補ってもらう。

7. 学習状況の把握および活用方法

- ・授業中に、小テストの実施、ワークシートの記入を行い、授業最後に確認テストを実施して、学習者の理解度を確かめる。
- ・授業外学習として、授業で修得した知識を活用してミニレポートを作成する課題を指示する。

Check

8. スタッヅ計測データ等に関する自己評価

		A	B	C
着眼点①	出席率		●	
着眼点②	学生分布			●
着眼点③	私語・居眠り			●
着眼点④	教員のポジション		●	
着眼点⑤	教員行動			●
着眼点⑥	利用ツール			●
着眼点⑦	学習者行動		●	
着眼点⑧	01. 興味*		●	
着眼点⑨	02. 集中*		●	
着眼点⑩	03. わかりやすさ*		●	
着眼点⑪	04. 理解度*			●
着眼点⑫	05. 気づき*		●	
着眼点⑬	06. 探究喚起*			●
着眼点⑭	07. クラス参加*		●	
着眼点⑮	08. 進行満足*	●		
着眼点⑯	09. 教員熱意*	●		
着眼点⑰	10. 態度指導*	●		

A.期待を上回っている B.期待通り C.期待を下回っている
* 学習者アンケート項目

【学習者行動改善シート】

Action欄は、Check欄における自己評価を受けて授業内容のどの部分を改善するかを具体的なアイデアとして書き出す。

シート②

学習者行動改善シート②

年度	学期	キャンパス	測定日	曜日	時限	教室	担当教員名	科目名
2015	前期	自由が丘	2015年 7月6日	火	4	6203	杉田 一真	会社法入門

【科目の到達目標】

- ・企業活動になぜ「ルール」が必要なのか、ルールが設けられていない場合、どのような弊害が生じるおそれがあるのかについて理解している。
- ・独占禁止法および知的財産権法について、基本的な法令、判例・審決に関する知識を習得している。
- ・会社法について、基本的な知識を習得している。

Action

9. 授業および学習者行動の改善アイデア

	改善アイデア	改善が期待される指標
1	スライドを印刷して配布するのではなく、学生がより理解しやすいように整理したレジюмеを配布する。	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 学生分布 <input type="checkbox"/> 私語・居眠り [学習者行動アンケート項目] <input type="checkbox"/> 興味 <input type="checkbox"/> 集中 <input checked="" type="checkbox"/> わかりやすさ <input checked="" type="checkbox"/> 理解度 <input type="checkbox"/> 気づき <input type="checkbox"/> 探究喚起 <input type="checkbox"/> クラス参加 <input type="checkbox"/> 進行満足 <input type="checkbox"/> 教員熱意 <input type="checkbox"/> 態度指導
2	教室後方まで机間指導に行く。	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 学生分布 <input type="checkbox"/> 私語・居眠り [学習者行動アンケート項目] <input type="checkbox"/> 興味 <input checked="" type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> わかりやすさ <input type="checkbox"/> 理解度 <input type="checkbox"/> 気づき <input type="checkbox"/> 探究喚起 <input checked="" type="checkbox"/> クラス参加 <input type="checkbox"/> 進行満足 <input type="checkbox"/> 教員熱意 <input type="checkbox"/> 態度指導
3		<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 学生分布 <input type="checkbox"/> 私語・居眠り [学習者行動アンケート項目] <input type="checkbox"/> 興味 <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> わかりやすさ <input type="checkbox"/> 理解度 <input type="checkbox"/> 気づき <input type="checkbox"/> 探究喚起 <input type="checkbox"/> クラス参加 <input type="checkbox"/> 進行満足 <input type="checkbox"/> 教員熱意 <input type="checkbox"/> 態度指導
4		<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 学生分布 <input type="checkbox"/> 私語・居眠り [学習者行動アンケート項目] <input type="checkbox"/> 興味 <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> わかりやすさ <input type="checkbox"/> 理解度 <input type="checkbox"/> 気づき <input type="checkbox"/> 探究喚起 <input type="checkbox"/> クラス参加 <input type="checkbox"/> 進行満足 <input type="checkbox"/> 教員熱意 <input type="checkbox"/> 態度指導

10. 授業および学習者行動の改善に必要なサポート

- ・6302教室は、机の間隔が狭く、演習中の机間指導がしにくい。次年度より、AL実験教室(6303教室)への教室変更を希望します。
- ・6302教室は、スクリーンをおろすと黒板のスペースが限られ、板書がしにくい。

11. コンサルテーションに対する要望

- ・本科目の授業改善に参考になりそうな科目・担当講師をご紹介ください。可能であれば授業参観を希望します。
- ・探究喚起のスコアの高い科目・担当講師をご紹介ください。探究喚起のスコア向上の改善策についてアドバイスをいただければ幸いです。

自由が丘キャンパス（平成26年12月）

【6301 教室】
（小教室）
6席×7



【6303 教室】
（大教室）
8席×13



【6401 教室】
（小教室）
6席×7



【PBL実践ガイドブック（教員向け）の構成】

第1章 PBLとは

第2章 新規PBL活動のフロー

第3章 「開始前」「開始直前」「中間発表の実施」「終了後」
各段階での検討事項

第4章 「学外（対外的）」「学内」手続き

第5章 基本的倫理の徹底

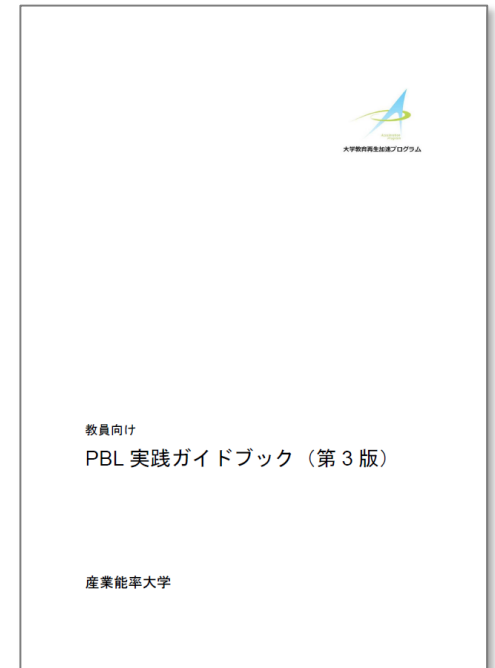
第6章 利益相反について

（補足1）課外授業とPBLの提出書類について

（補足2）PBL活動におけるトラブル発生時の初動について

（別添1）「課外授業実施届」

（別添2）「課外授業報告書」



【PBL実践ガイドブック（学生向け）】

1年次必修科目で、PBL実践ガイドブック（学生向け）を配布・周知し、その理解度を図るため、オンラインで「確認テスト」を実施している。

PBL確認テスト 集計結果（2019年度, 1年生対象）

学部	履修者数	回答者数	回答率	平均点 (8点満点)
経営学部	555人	492人	88.6%	7.31点
情報マネジメント学部	386人	368人	95.3%	7.32点

【確認テスト 設問例】

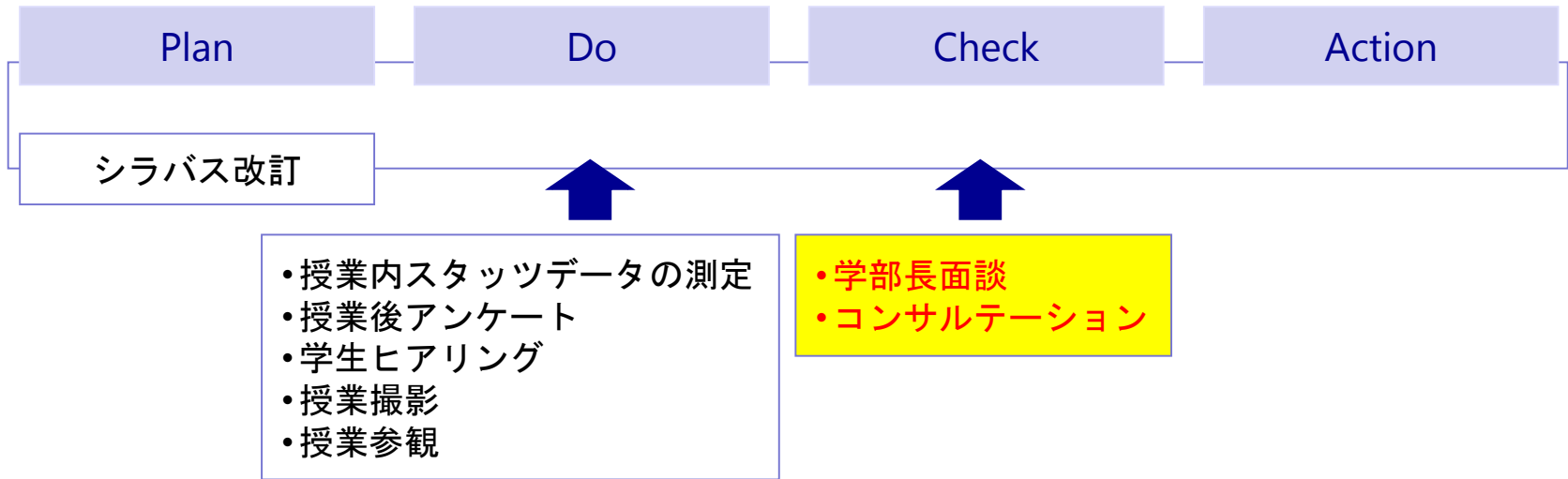
問1 PBLについての説明のうち、明らかに間違っているものを次の中から選びなさい。

1. PBLは課題解決型学習（Problem-Based Learning）、あるいはプロジェクト型学習（Project-Based Learning）などと呼ばれる
2. PBLでは、学生は、課題解決やプロジェクトへの参加を通じて主体的に学習を行う
3. PBLは、それまで得た知識を実践的に活用することが目的であり、新しい学びを深くするものではない

問2 PBLのタイプについての説明のうち、明らかに誤っているものを次の中からひとつ選びなさい。

1. 低学年（1年～2年）のPBLと高学年（3年）のPBLとでは、その目的が異なると考えられる
2. 低学年では、まだそれまで学んだ知識が乏しいので、PBLの成果はあまり期待できない
3. 高学年のPBLでは、これまで学んだ知識やスキルを実際の場面に応用することが求められている

【PDCAサイクルに沿った改善】



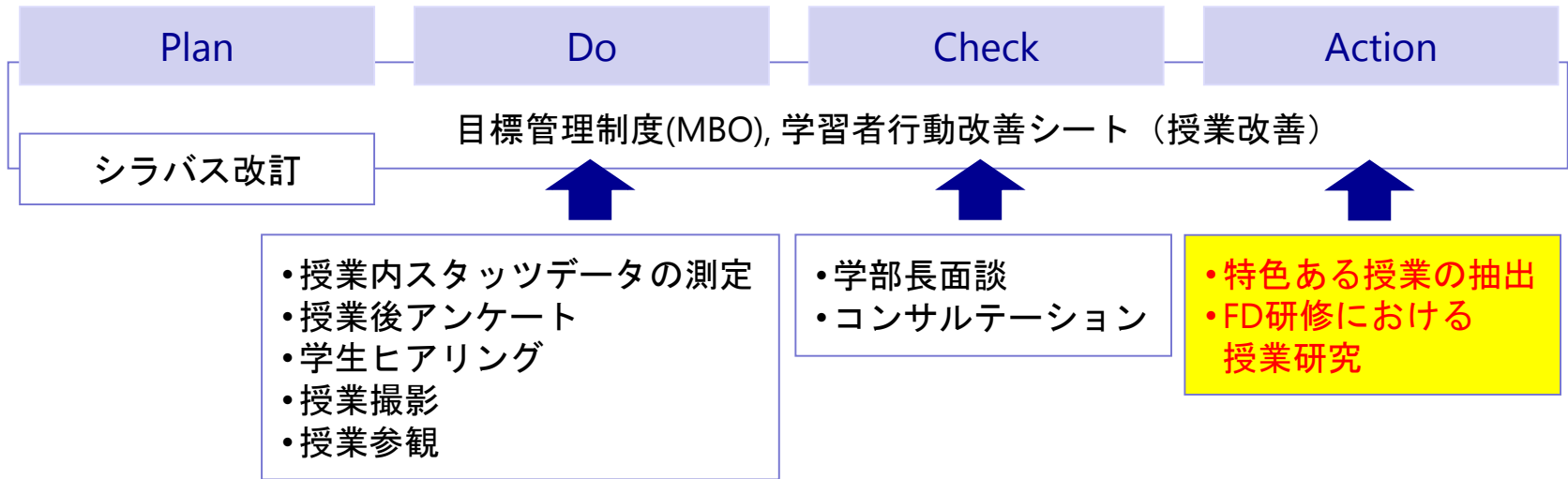
【教学管理職によるコンサルテーション】

フィードバックシートおよび学習者行動改善シートをもとに、授業改善および学生の学習行動改善に関する話し合いを行う。あくまで担当教員がデータをみて、どのように振り返り、どのように授業改善を行うかを重んじる姿勢が重要である。

新任教員の授業改善例

	測定結果	コンサルテーション
着任1年目 前学期	<ul style="list-style-type: none"> • 学習者・教員評価ともに全体平均並 • 講義（説明）が半分 • 教員の動きは教卓付近が6割 • 居眠り・私語あり 	学生の集中度向上のためにできることについて、例示・振り返りを行う。机間指導を増やすなどの授業構成、教室運営の両方にそれぞれ改善点を確認した。
着任1年目 後学期	<ul style="list-style-type: none"> • 学習者・教員評価ともに平均をやや下回る。 • 講義が6割、振り返りが1.5割。 • 教員の動きは教卓付近が4割に減りその分机間指導が増えた。 	振り返り・机間指導が有効に働いていることを確認した上で、さらに、例示を増やす、教室後方の学生への注意を行う、座席指定を敢えて行い、クラスコントロールをするなど、教室運営について話し合った。
着任2年目 前学期	<ul style="list-style-type: none"> • 学習者評価は平均をやや下回るが、教員評価は平均並 • 講義が4.4割、振り返り、例示などで1割 • 教員の動きは教卓付近が4割弱に減り机間指導は教室後方が増えた。 • 居眠り・私語は依然見られる。 	教室運営の改善（机間指導等教員の動きがアクティブになった、学生への注意が見られる等）を確認した上で、100分の授業で提供する知識量について話し合う。わかりやすさや理解度を上げるために、量の加減、シラバスの検討にも言及。

【PDCAサイクルに沿った改善】



【FD研修における授業研究】

蓄積した授業内スタッツデータを分析して「特色ある授業」を抽出し、授業進行のポイント等を共有し授業改善を加速する目的で、FD研修会において授業研究を行う。

同一科目でありながら対照的なデータが示された授業

	授業A	授業B
学習者アンケートの結果	両授業とも、学習者アンケートにおいて学生から高い評価を得た。特にQ7.わかりやすさ、Q5.探究喚起、Q8.進行満足の3項目は、全体平均を大きく上回った。	
授業内スタッツデータの結果	<ul style="list-style-type: none"> • 教員行動データのActivity Instruction比率が43.9%に達しているように、授業Aの担当教員はクラス全体に問いかけたり、特定の学生を指名して問いかけたりするなど、学生との対話を通じて授業を進行していたことがわかる。 • 学習者行動データ上も、授業Aの学生は、教員からの問いかけに対する回答や、個人ワークをすることに多くの時間をかけていたことが示されている（Active Participation比率：37.8%）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教員行動データのLecture比率が65.0%に達しているように、授業Bは一方的講義を中心に進行されていたことがわかる。 • 学習者行動データ上も、授業Bの学生は、教員のレクチャーを聴くことに多くの時間をかけていたことが示されている（Lecture Listening比率：80.5%）。

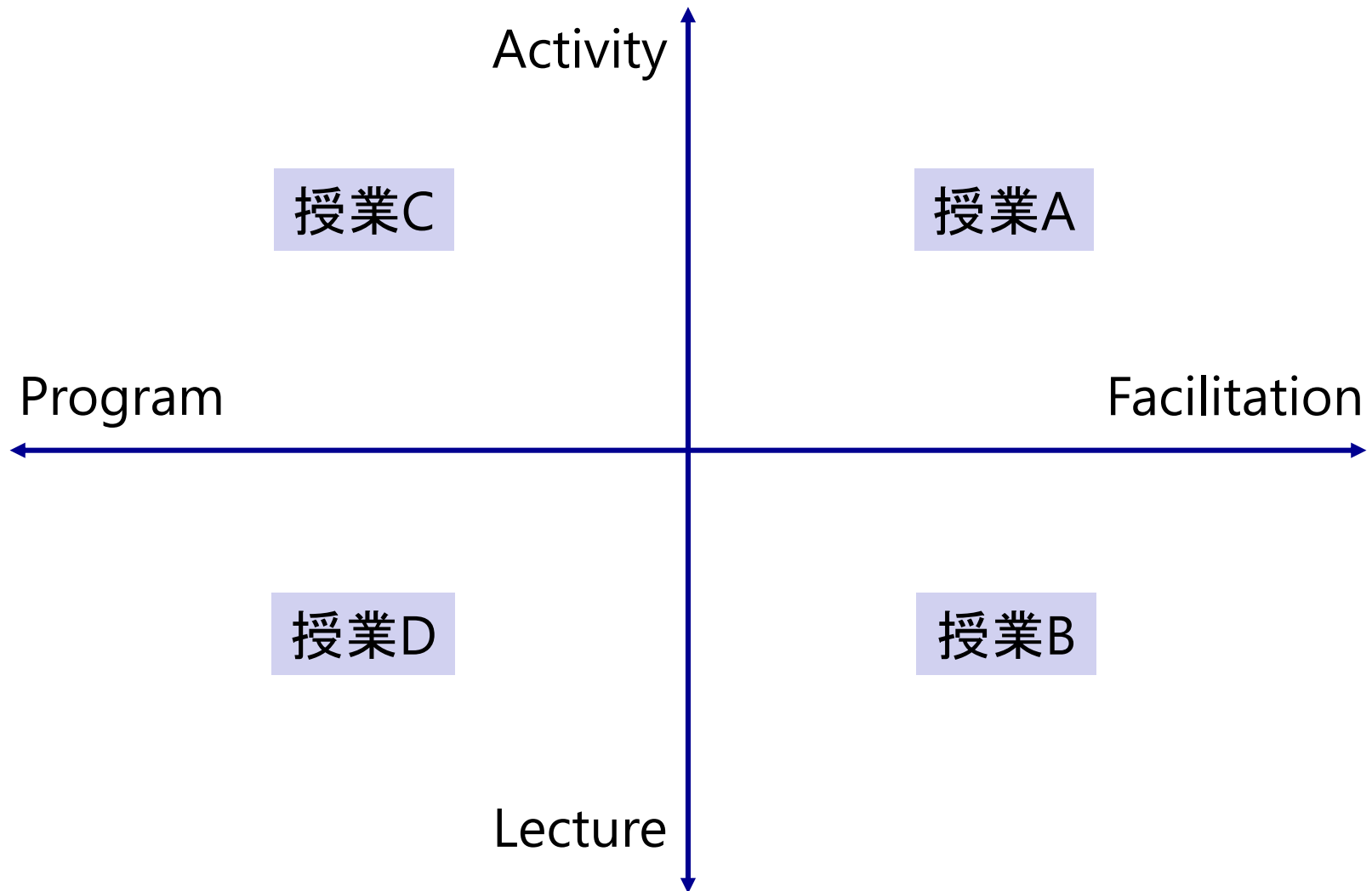
【FD研修での授業研究】

各授業を撮影した映像を視聴した後、各担当教員にどのような意図をもって、どのような授業設計・運営上の工夫を行っていたのかについて解説をお願いした。

授業設計・運営上の工夫

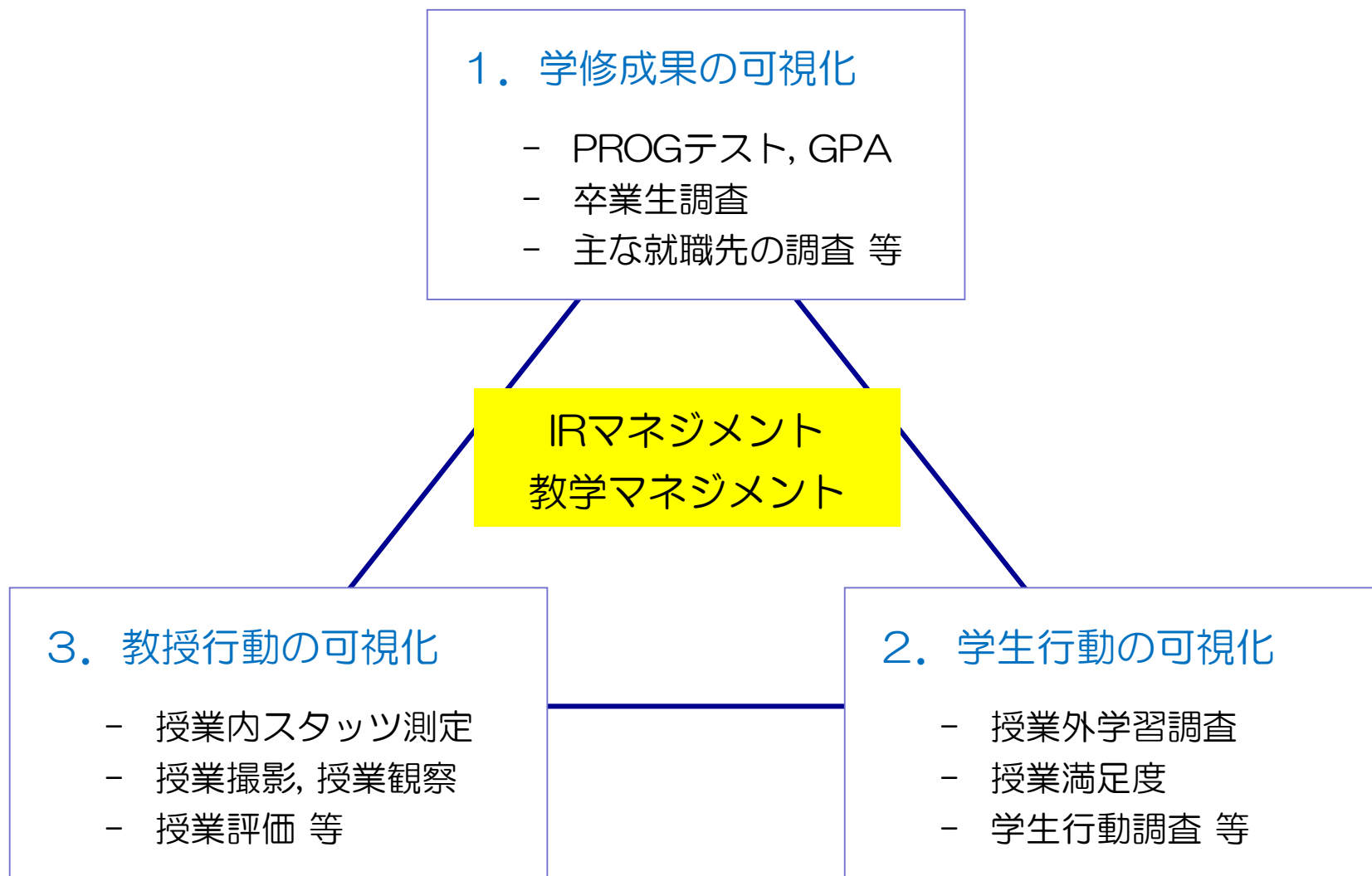
授業A	授業B
<ul style="list-style-type: none"> • 授業冒頭で前回の振り返りと全プログラムにおける当日の授業の位置付けを説明する。授業の全体構成を意識しながら各回を受講してもらう。 • 頻繁に学生に問いかけを行う。学生は自分たちでマイクを回しながら教員の問いに答えていく。学生は自分の回答順を予想することができるため、準備と心構えができる。結果、スムーズに回答が行われ、授業が円滑に進行する。 • 配付資料は図表を中心に構成し、説明文をあまり書かない。これにより、学生は解説をメモしながら集中して受講するようになる。 • 学生の理解度を確認しながら、1枚1枚のスライドを丁寧に説明するようにしている。 • 身近な商品や企業などの事例を数多く引用することで学生の興味を喚起している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学生の理解度・集中力をみながら丁寧に授業を進行し、授業に遅れる学生を出さない。 • 知識を詰め込み過ぎないように注意し、キーワードを中心に絞り込んだ知識を丁寧に教える。 • 画像や映像を用いたり、ペアワークの時間を設けたりすることで学生の集中力を維持している。 • スライドに要点を表示し、学生がレクチャー内容をノートに取りやすいように工夫している。 • 歩きながらレクチャーすることで、教室内に適度な緊張感を保つようにしている。 • 学期序盤の授業で教室後方に座っている学生を集中的に指名して、学生が前の方に座るようにしている。 • 自身の経験を話すことで学生の興味を喚起している。

【特色ある授業の抽出, FD研修における授業研究】



【教授行動の可視化のポイント】

1. 可視化のプロセスにおいて教員に**負担**をかけない
(手段の目的化を防ぐ、継続性の担保)
2. データをもとに**対話**の中から改善点・対応策を発見する
(コンサルテーション≒コーチング)
3. 組織に**支援・援助**を求められる体制を整える
(授業改善を担当教員の個人ワークにしない)
4. 良いデータに着目し、FD研修などで**Good Practice**を共有する
(多様な授業活動の受容、映像の共有によるPDCA)
5. 学生の学習行動・学修成果に生じた変化を共有する
(**成果の実感**が動機付けになる、教授活動→学習行動への焦点化)





2. 学習者中心の教育の質向上 に関する取組み

【授業改善：計画立案力・リーダーシップ】

①計画立案力と②リーダーシップの2点を教育改善の課題と設定した。

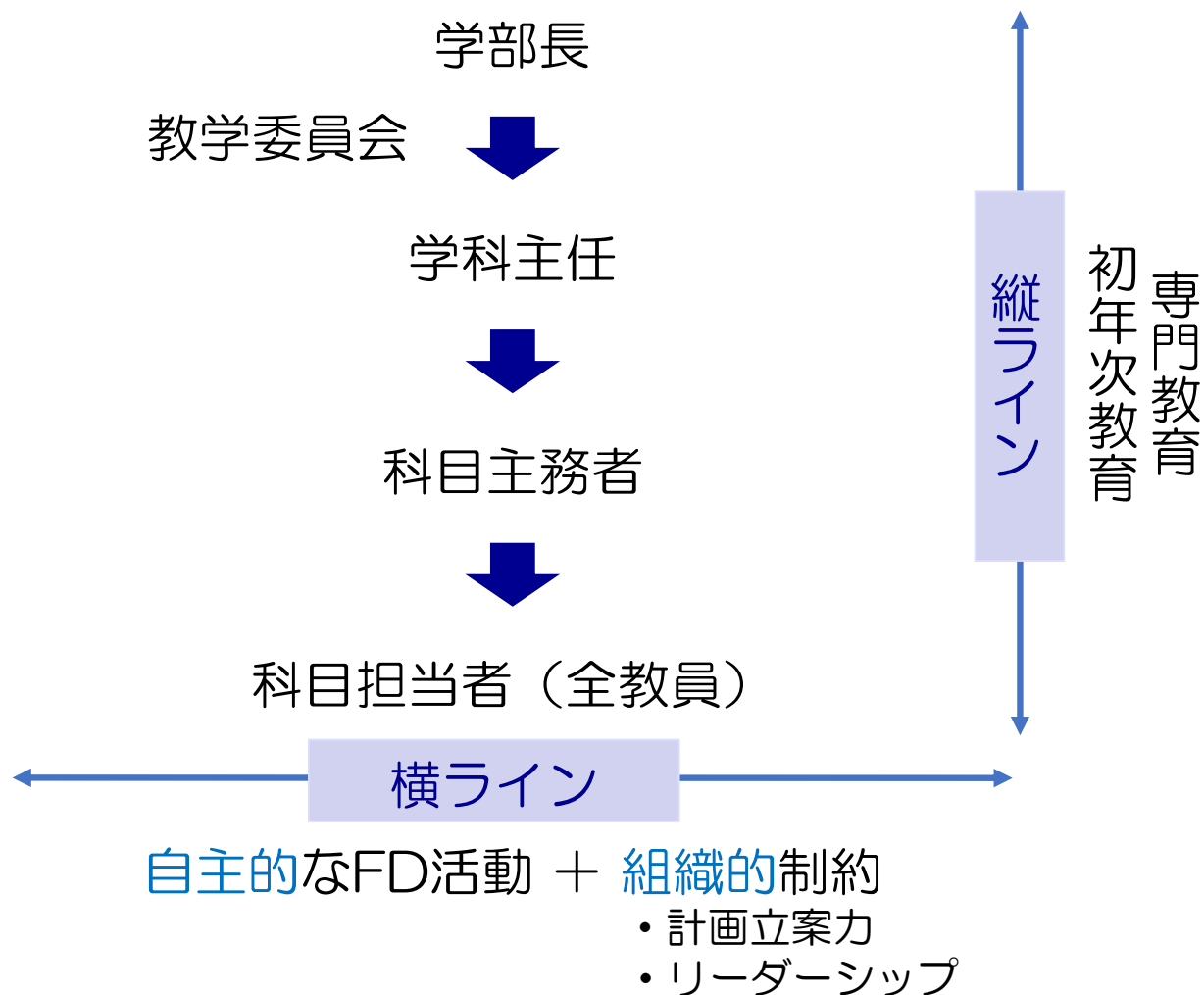
方策1

学部長→学科主任→科目主務者の縦ラインでの改善

方策2

教員の横の繋がりでの授業改善

【縦・横からのカリキュラム改革】



【FD研修会での小グループ活動】

大グループ	小グループ			
	マーケティング 学科	経営学科 (現代ビジネス学科)	現代マネジメント 学科	大学院
初年次ゼミ	●	●	●	
専門ゼミ	●	●	●	
専門教育	●	●	●	●
キャリア教育		●	●	
グローバル教育		●		
インフォーマルマネジメント	●	(高大接続)		
	●	(大社接続)		

【主体的学習者の育成に向けた重層的な取り組み】

【入学前】	→	キャリア開発セミナー	主体的学習者育成プログラム
【入学後】	→	オリエンテーション キャンプ	Project Based Learning(PBL), 企業協力 興味関心, コミュニケーション, 他者理解
【1年次】	→	基礎ゼミ I・II	目的の異なる2回のPBL ①ジェネリックスキル活用 ②専門知識活用
【1-4年次】	→	キャリア科目	キャリア科目の必修化
【2年次】	→	1/2卒論	Inquiry-Based Learning(IBL) リテラシー, 計画実行力
【3年次】	→	修得 ⇔ 活用	2コマ連続 (マーケティング学科)
【4年次】	→	ゼミ活動	探究, 個別指導

【大学1年次】

基礎ゼミ I・II

目的の異なる2回のPBL

①ジェネリックスキル活用 ②専門知識活用

【大学2年次】

1/2卒論

Inquiry-Based Learning (IBL)

リテラシー養成



- 企業担当者との対話（課題提示・質疑・講評）
- 課題設定, 興味関心, 探究心
- 協働, 親和的動機, 他者理解
- 競争, 競争的動機
- 伝承（前年度成果, SA）
- 支援（SA, PBLアドバイザー）
- チェック&フィードバック, 計画実行力
- 外発的動機（表彰・副賞, 2年次後期ゼミ選考資料）
- 目的の明確化（ジェネリックスキル, 専門知識, リテラシー）
- 科目間連携（他の必修科目）
- 学習環境（アクティブラーニング教室, ラーニングコモンズ）

【授業外学習環境の整備】

ラーニングcommons
(自由が丘5号館1階 280席)



ラーニングcommons
(自由が丘6号館4階 64席)



ラーニングcommons
(自由が丘1号館1階 60席)



ラーニングcommons
(湘南1号館1階 100席)



ラーニングcommons
(湘南図書館地下1階 48席)



探求型学習スペース
(自由が丘1号館2階 18席)



【授業外学習サポート】 学生サポート活動 ～Shares

「学生が相互に教えあい学びあうことを通じて成長することを目指した学生の組織」 Shares (Sanno Hearty experts in Active learning REsources) を、2015年9月に設立した。

設立から約3年間は、教職員がsharesのサポートをきめ細かくフォローしてきた。その間にノウハウが蓄積し、あわせて学生間での縦のつながりもできてきたことから、教職員と学生間での、または学生間での情報共有が適切になされ、近年は学生がこうしたノウハウなどを基に主体的に活動をしている点が特徴といえる。

また、学生の企画内容も質的な向上が図られている。従前は資格支援やパソコン活用方法などの授業外学習支援が主流であったが、今年はSharesの学生自らが1年生の履修科目のシラバスを読み込み、どの時点で課題が集中するかなどの状況を把握し、新入生向けにレポート作成や定期試験対策を計画的に行うことを奨励するセミナーなども開催されている。

さらに、2019年度から「Buddy」と称する新入生フォローを実施している。新入生が不安に感じていることを個別に先輩が回答する仕組みで、こうしたことが奏功し、Shares企画に対する1年生の参加者が増加している。



【授業外学習サポート】 学生サポート活動 ～Shares

●学習支援サポート

<資格取得支援>

Shares

- 11/30(月)～12/11(金)
- 昼休み12:50～13:20
- ラーニング commons I/VYホール

資格取得相談コーナー

就活に向けて
資格取得を目指したい！

合格率が高い資格を
受けたい！

どの資格に取組めばいいのかわからない...

資格取得相談コーナー
資格取得相談コーナー

資格取得相談コーナー
資格取得相談コーナー

Shares

なんでも簿記入門質問会!

高専先生による 楽しい!
簿記は、しくおがわかれば
問題を解くのが楽しくなります
わからないことは、いっしょに
解消しましょう!

〈日時〉5月29日(一)、毎週水曜 5時
〈場所〉304教室 (変更の可能性有)
〈内容〉簿記の授業で、まだわからない・おかりにくいと感じる
言葉のことや、しくみなど、なんでも気軽に質問でき
ます!!

※本講座に出席者があって、質問会に参加できない場合は、決りかたの
方法で先生と連絡を取って二番手をください。Sharesが変更決定を通知し、
参加に対応します。
*SharesのTwitter @Shares_shonanへのメッセージ
... QRコードはこちら
*shares@mi.sanno.ac.jpへのメール

shares 学習支援イベント

知っておこう! 秘書検定

●日時
12/16(水)・12/21(月)
12:50～13:15

●場所
1304教室

立おすめポイント

- ①資格取得者の経験談が聞けます
- ②おすすめの勉強方法を紹介します
- ③傾向を踏まえた、「厳選した問題」を紹介

Shares

Shares

**資格紹介
セミナー**

資格についてのお得な情報をお伝えします!
実際に資格に挑戦した学生に質問ができます! ◎

どんな資格
があるの?
資格の取得に
必要な
サポートは
あるの?

●日程 7月12(水)・13日(木)
12:50～13:15

●場所 1302教室

●連絡先 3年 権伸章 a3158901@m1.sanno.ac.jp

【授業外学習サポート】 学生サポート活動 ～Shares

＜授業外学習支援＞

**なめんな！
2分の1卒論！！**

場所: 1202
日時: 4月24日(水)・25日(木)
12時50分～

概要

- ★ 去年の上位受賞者の体験談や失敗談を聞けるチャンス！(1日2人)
- ★ 何でも聞ける質問タイムもあります！
- ★ 焦らず卒論を遂げるチャンスかも！！
- ★ 卒論の流れが分かる！
- ★ だれでも参加お待ちしております！！



GPAで

得	する人	損	する人
----------	-----	----------	-----

4/24(水) 26(金)
時間: 12:50-13:20
場所: 1302(1号館3階)

GPAで何? 何に使うの? どうすれば変わるの?

皆さんの疑問に答えます。



ゼミ選択

志望書・ゼミフォーラム
について教えます

いつやるか?
今でしょ!

第1回: 6月12日(水) 1201教室・7303教室
第2回: 6月13日(木) 1201教室

第1回は2教室で同時開催します。
どの教室でも同じ内容を行います。



Sharesがお送りする企画第1弾

情報

manaba

徹底基礎

「わからない」を「わかった！」に

場所: M-イブ
日時: 9月30日・10月1日
時間: 12:40-13:50

内容: 英語(Word & manaba)
対象: どのような方でも! 持ち物: なし
manabaの基礎が、正しいmanabaが身につくようにと選んでいく方法
実際に基礎を学ぶのがおもしろいと思いませんか?



【授業外学習サポート】 学生サポート活動 ～Shares

●新入生ガイダンスサポート

<全体ガイダンス>



<ガイダンス後の個別フォロー>



【授業外学習サポート】 学生サポート活動 ～Shares

● 学校生活支援サポート



● その他

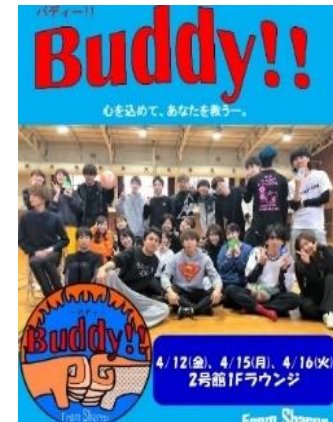
< 図書館利用促進映像 >



< 英語スピーチコンテスト >



< Buddy >



【Sharesの学生のコメント】

(1) 視点の持ち方の変化

- 個々の視点から、学内全体を考えようという視点にシフトした。その結果、物事をより広い視野で観察することが出来るようになった。
- 学内の活動や授業プログラムにも興味関心を持つようになった。
- 学生のニーズを知る必要があるため、回りの学生がどんなことを考えているのか、何を欲しているのかについて意識的に考えるようになった。

(2) 新たな機会や能力の獲得

- 限られた時間の中で行動することによりタイムマネジメント能力が備わった。
- 人に何かを教える際に、以前よりも経験値が増えたため、より上手に教えたり、上手にアドバイスできるようになったため、互いに高めあうことが出来た。
- 活動の中で、他のゼミや後輩との交流が増え、対人対応力が磨かれた。



3. 高大接続の強化に関する取組み

【アクティブラーニング実質化の組織的推進】

平成26年大学教育再生加速プログラム(AP)に採択されたことを機に、科目担当者による授業改善を中心に据えつつ、いかに組織的にアクティブラーニングを深化させていくか（ディープアクティブラーニング）について取り組みを始めた。



大学教育再生加速プログラム(AP)

- (1) 教育方法の改善
- (2) 教育プログラムの改善
- (3) 学習支援の強化
- (4) 学修成果の多面的把握
- (5) 高大接続の強化
- (6) 事業成果の三方発信（大学, 高校, 社会人）

【主体的学習者の育成】

学生の主体的学習態度を引き出す取り組みを並行して行う。

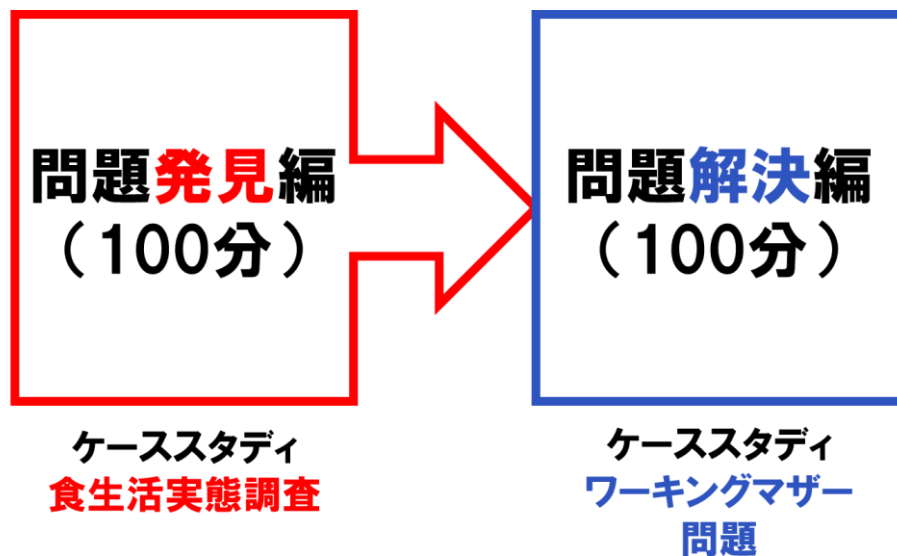
主体的学習者
の育成



アクティブラーニング
の実質化

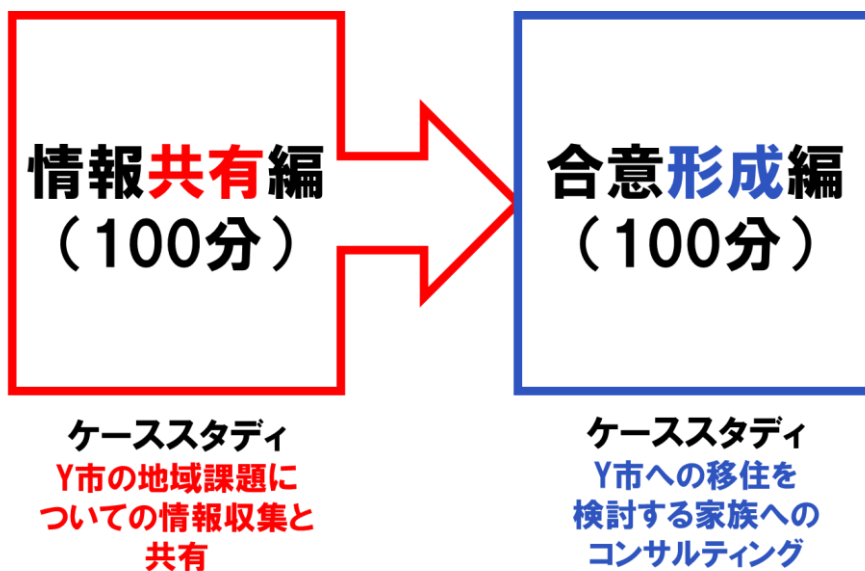
【高大接続事業】 (1) 主体的学習者育成プログラムの提供

- 日常的に見聞きする身近な事象からでも「問題」を発見し、「課題」が設定できることを体験的に学習するプログラム
- クイズやチェックリスト、ケーススタディなどを取り入れ、受講者の気づきや興味・関心を引き出すプログラム
- 「問題発見」編と「問題解決」編の2つのモジュールから構成



【高大接続事業】 (2) 協働的学習者育成プログラムの提供

- 地域課題を題材とし、個々人が収集した情報をチームで共有しながら、課題解決に向け、チームで合意形成を図る力を養うプログラム
- 情報ゲームや映像教材を取り入れ、受講者の気づきや興味・関心を引き出すプログラム
- 「情報共有」編と「合意形成」編の2つのモジュールから構成



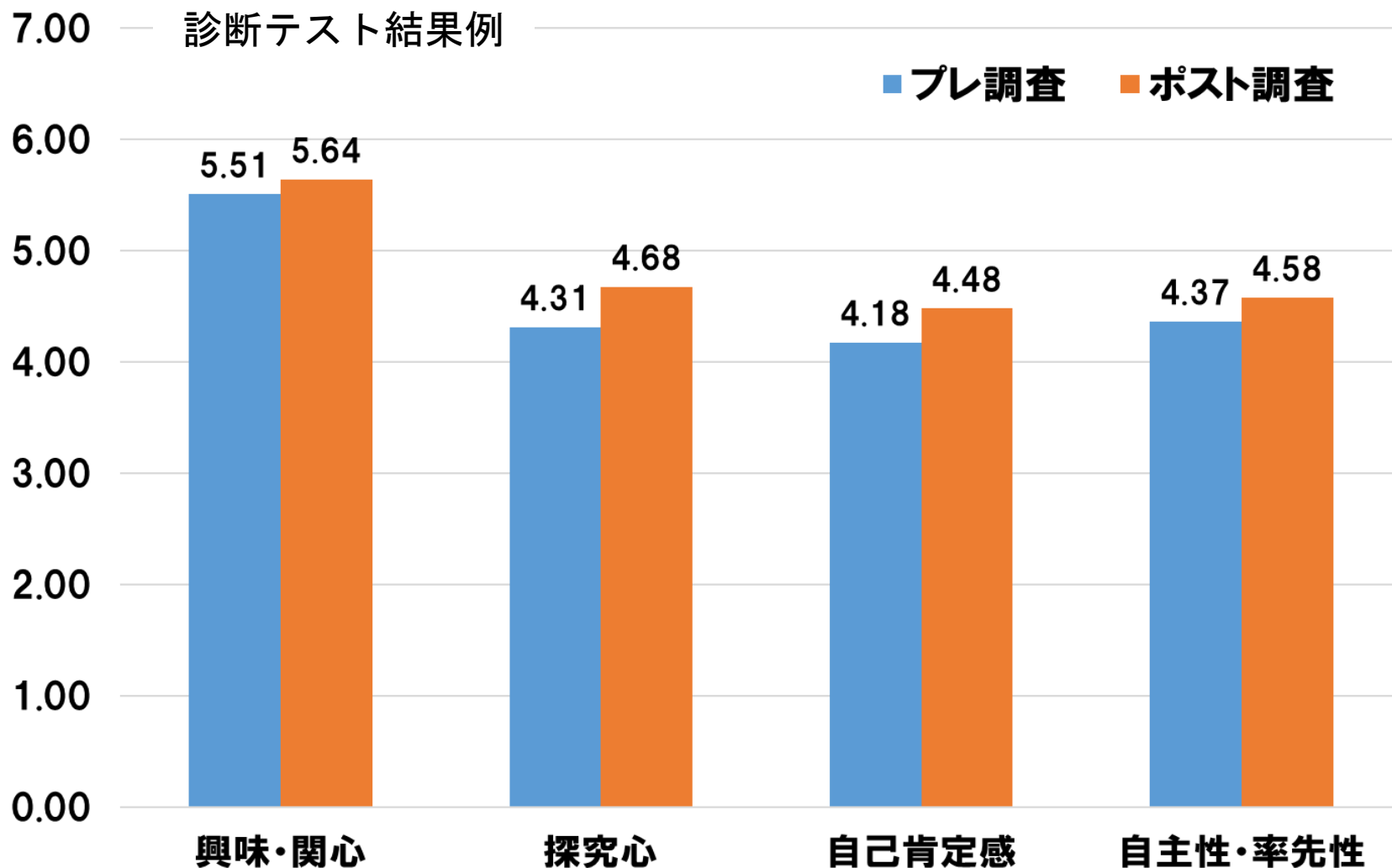
【プログラム実施件数（延べ数）】

	高校数	受講生数*1
2017年度	6校	1,133名
2018年度	10校	1,816名
2019年度*2	8校	1,345名
計	24校	4,294件

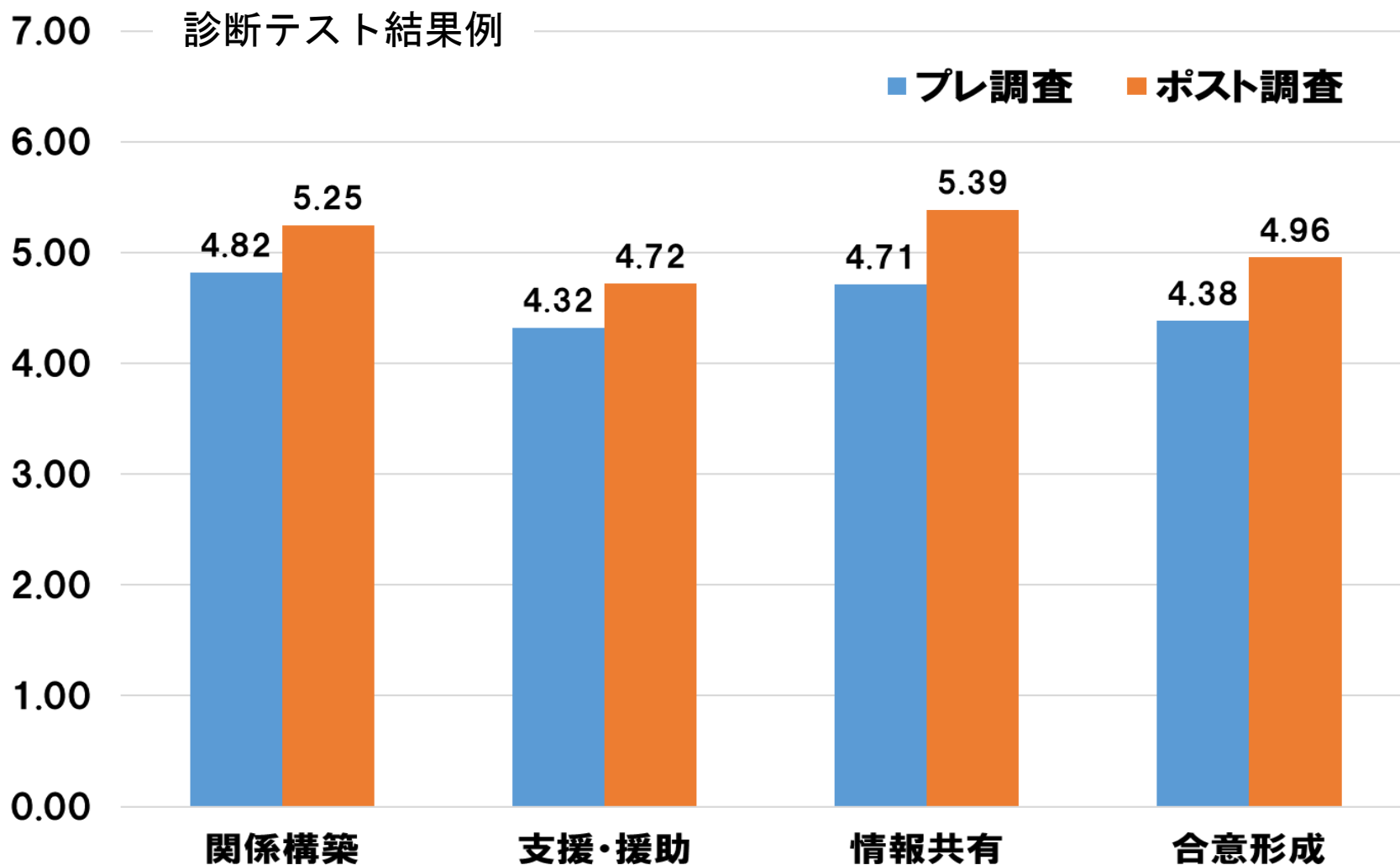
*1 本学主催の「キャリア開発セミナー」等での受講生数含む

*2 2020年1月末時点

【プログラム実施の効果】 (1) 主体的学習者育成プログラム



【プログラム実施の効果】 (2) 協働的学習者育成プログラム





4. APを通じて得られたこと、 発展的継続に向けて

【APを通じて得られたこと】

- (1) 全学的かつ教職一体の事業推進体制の構築
- (2) 事業進捗把握のためのKPI(Key Performance Indicator)の設定
- (3) AL推進のための3つの可視化手法の開発
- (4) データと対話による教育改善
- (5) エンロールマネジメントの入口（高大接続・大社接続）



学習者中心の教育を実現するための
基盤的プラットフォームの確立

【発展的継続に向けて】

大学通学課程 教育事業推進委員会の設置（2019年1月機関決定）

- 全学的かつ教職一体の事業推進体制の継続
 - AP事業の継続, 発展
 - IRデータの収集・分析・活用の強化
 - 教育目標に基づく教学マネジメントの強化
 - 連携強化（高校, 社会・企業, 大学, 地域）
-